

Plug & Play 対応 ISA バス用 LAN アダプター  
CentreCOM® **LA-ISA V2**

---

**ユーザーズマニュアル**

CentreCOM®  
**LA-ISA V2**

# ユーザーマニュアル

©1997 アライドテレシス株式会社

# 使用および取り扱い上の注意

本製品を安全に使用するために、以下の事項を必ずお守りください。これらの事項が守られていない場合、感電、怪我、火災、故障などの原因になります。



## 稲妻危険

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。



## 静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分などに素手で触れないでください。



## 取り付け及び取り外し時の注意

コンピュータの拡張スロットに本製品を取り付ける作業は、必ずコンピュータの電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。また、コンピュータのマニュアルを参照の上正しく行ってください。



## 設置、ケーブル配線、移動は電源を抜いて

本製品の設置、ケーブル配線、移動などを行う場合は、必ずコンピュータの電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。



## 取り扱いは丁寧に

落としたり、ぶつかけたり、強いショックを与えたりしないでください。



## 次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所  
(結露するような場所)
- ・湿気が多い場所や、水などの液体がかかる場所
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所  
(静電気障害の原因にもなります)
- ・腐食性ガスの発生する場所
- ・スピーカ付近などの強磁界



## 動作温度と湿度

本製品は指定された動作周囲温度および湿度の範囲内でご使用下さい。動作可能な周囲温度範囲は本マニュアル付録に記載されています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。  
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

Plug&Play対応ISAバス用LANアダプター

CentreCOM® **LA-ISA V2** 

CentreCOM LA-ISA-T/LA-ISA-25T V2をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本製品はISA規格に適合したバスを持つコンピュータを、Ethernet Baseband LAN システムに接続するためのLANアダプターです。

このマニュアルは、本製品を正しくご使用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管していただきますようお願いいたします。

アライドテレシス株式会社

### 内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は以下のとおりです。お買い上げの商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたらお手数ですがお買い求めの販売代理店までご連絡ください。

(本体)

LA-ISA-T V2 または LA-ISA-25T V2(永久保証対象)

(付属品)

お客様インフォメーション登録カード

ユーザーズマニュアル

永久保証書

ドライバーディスク(1枚)

シリアルナンバーラベル(3枚)

(その他添付紙がある場合もあります)

## ご注意

- (1) 本マニュアルは、アライドテレシス(株)が作成したもので、全ての権利をアライドテレシス(株)が保有しています。アライドテレシス(株)に無断で本書の一部または全部を複製することを禁じます。
- (2) アライドテレシス(株)は、予告なく本マニュアルの一部または全体を修正、変更することがありますのでご了承ください。
- (3) アライドテレシス(株)は、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- (4) 本製品の内容またはその仕様に関して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©1997 アライドテレシス株式会社

## 商標について

CentreCOM、CentreNET はアライドテレシス株式会社の登録商標です。

Windows、Windows NT、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

PC/TCP は米国 FTP Software, Inc. の登録商標です。

Ethernet は富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

NetWare は米国 Novell, Inc. の商標です。

Sun は米国 Sun Microsystems, Inc. の登録商標です。

IBM、OS/2 は IBM Corporation の商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

## マニュアルバージョン

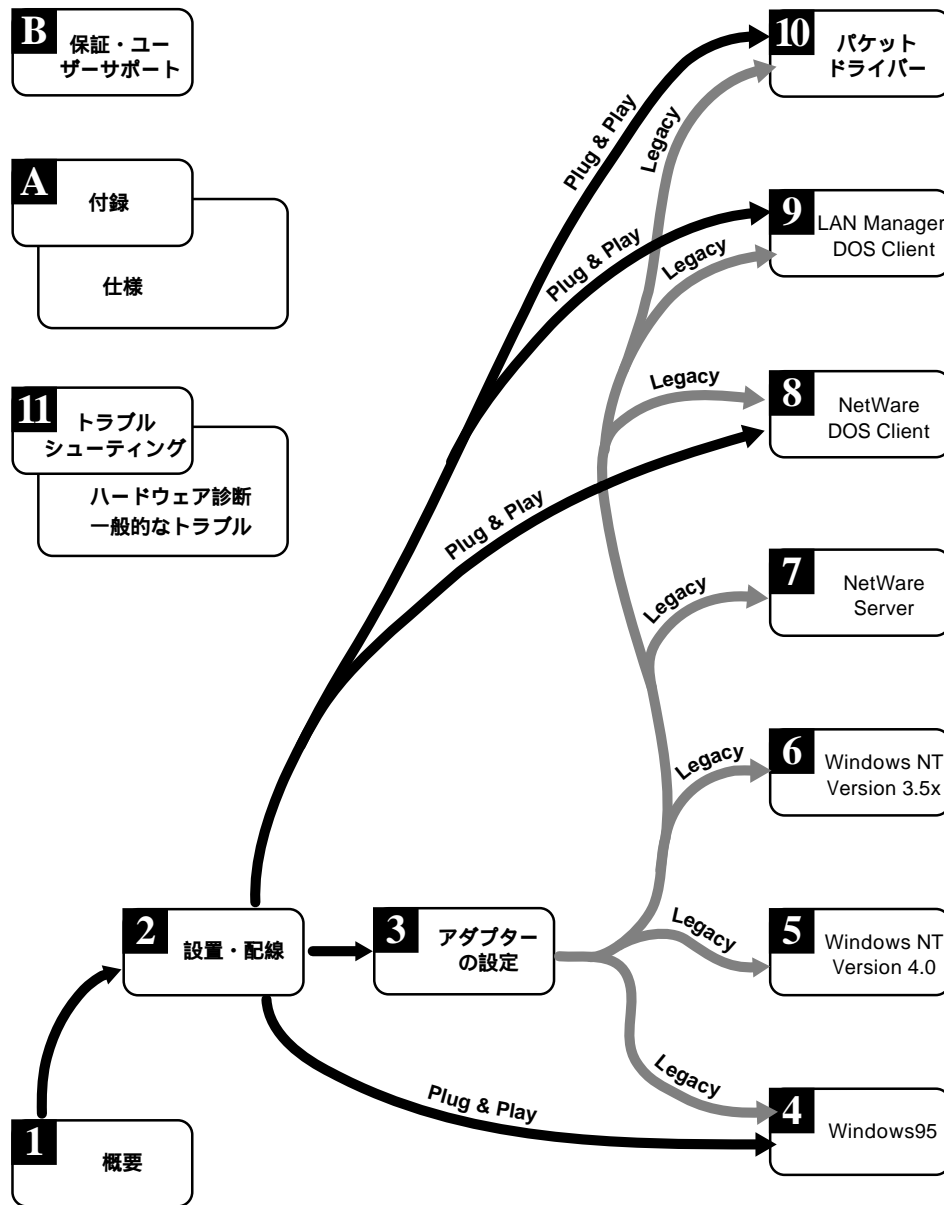
1997年11月25日

Ver. 1.0 pl. 0

1st release

# このマニュアルの構成

このマニュアルの構成は、以下のようになっています。ご使用のOSやパソコンに応じて、下図のように読み進んでください。「Plug & Play」は、パソコンとOSの両方がPlug & Playに対応している場合の道筋です。「Legacy」は、パソコンまたはOSがPlug & Playに対応していない場合の道筋です。



# 目次

1	概要	1
1	CentreCOM LA-ISA V2 シリーズの概要	2
1.1	製品バリエーション	2
1.2	本製品の特長	2
1.3	各部の名称と働き	3
1.4	付属ドライバーやユーティリティ	6
2	設置・配線	7
1	本製品の組み込み	8
1.1	パソコンへの組み込み	8
1.2	パソコンからの取り外し	9
2	ネットワークに接続する	10
2.1	10BASE-T	10
	ハブとアダプターがリンクしていることの確認	11
2.2	10BASE2	12
2.3	10BASE5	13
3	アダプターの設定	15
1	「Plug & Play」と「Legacy」	16
	Plug & Play モード	16
	Legacy モード (従来互換機モード)	16
2	アダプターの設定・CFGISA.EXE	17
	Plug & Play、Legacy の選択	18
	I/O アドレス、インタラプトの設定	18
	ネットワークメディアの選択	19
	回線方式の選択	20
	ハードウェアリセット	20
3	MS-DOS・Windows 3.1 における Plug & Play	21
3.1	dwcfgmg.sys の組み込み	21
3.2	EMS メモリマネージャのバージョン (emm386.exe)	22
4	Windows95	23
1	準備	24
2	Windows95 のバージョン確認	24

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1



3	ドライバーのインストール .....	26
4	インストールの確認とアダプターの設定 .....	31
4.1	デバイスマネージャ .....	31
	インストールの確認 .....	31
	リソースの確認 .....	33
4.2	ネットワーク (コントロールパネル).....	34
	ネットワーク環境の設定 .....	34
	ドライバの設定 .....	34
	ネットワークメディアの設定 .....	35
5	ドライバーの削除と再インストール .....	36
5.1	ドライバーの削除 .....	36
5.2	再インストール .....	37
6	トラブルシューティング .....	38
6.1	デバイスマネージャでのエラー .....	38
6.2	使用許可の切り替え (Version B のみ).....	39
6.3	リソース値重複の回避 .....	40
6.4	本製品を Legacy モードで使う .....	41
	空きリソースの確認 .....	41
	本製品の設定 .....	43
	ドライバーのインストール .....	43
	リソース確認 .....	45
5	Windows NT Version 4.0 .....	47
1	準備 .....	48
2	ドライバーのインストール .....	50
2.1	リソースの確認 .....	50
2.2	アダプターの設定 .....	51
2.3	NDIS ドライバーのインストール .....	52
3	インストール後 .....	61
3.1	リソース値の確認 .....	61
3.2	本製品を使用しないとき .....	61
4	ドライバーの削除と再インストール .....	63
4.1	ドライバーの削除 .....	63
4.2	再インストール .....	64
6	Windows NT Version 3.5x .....	65
1	準備 .....	66
2	ドライバーのインストール .....	68

2.1	リソースの確認 .....	68
2.2	アダプターの設定 .....	69
2.3	NDIS ドライバーのインストール .....	71
3	インストール後 .....	79
3.1	リソースの確認 .....	79
3.2	本製品を使用しないとき .....	80
4	ドライバーの削除と再インストール .....	81
4.1	ドライバーの削除 .....	81
4.2	再インストール .....	82
7	NetWare Server .....	83
1	NetWare 4.1xJ サーバー .....	84
	AUTOEXEC.NCF の例 .....	86
2	NetWare 3.12J サーバー .....	87
	AUTOEXEC.NCF の例 .....	88
8	NetWare DOS Client .....	89
1	NetWare 4.1xJ/3.12J クライアント .....	90
	準備 .....	90
	インストール .....	90
2.1	NET.CFG .....	92
2	インストール結果 .....	92
2.2	STARTNET.BAT (デフォルト).....	93
3	エラーメッセージ .....	94
4	NetWare クライアントと PC/TCP の共存環境 .....	95
4.1	AUTOEXEC.BAT の記述 .....	95
4.2	NET.CFG の記述 .....	95
9	LAN Manager DOS Client .....	97
1	LAN Manager DOS クライアント .....	98
	準備 .....	98
	インストール .....	98
2	インストール結果 .....	99
2.1	PROTOCOL.INI .....	99
2.2	CONFIG.SYS .....	100
2.3	AUTOEXEC.BAT .....	100
3	エラーメッセージ .....	101

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

4	LAN Manager と PC/TCP の共存環境 .....	101
4.1	CONFIG.SYS .....	102
4.2	AUTOEXEC.BAT .....	102
4.3	PROTOCOL.INI .....	102
<b>10</b>	<b>パケットドライバー .....</b>	<b>103</b>
1	パケットドライバー .....	104
	準備 .....	104
1.1	CentreNET PC/TCP .....	104
1.2	その他の TCP 通信ソフトウェアをご利用の場合 .....	104
2	パケットドライバーの設定変更 .....	105
3	エラーメッセージ .....	106
<b>11</b>	<b>トラブルシューティング .....</b>	<b>107</b>
1	ハードウェア診断プログラム .....	108
1.1	ハードウェア診断の手順 .....	108
1.2	正常に試験が終了した例 .....	109
1.3	正常に試験が終了しなかった例 .....	109
1.4	ETHDIAG のエラーメッセージと対策 .....	110
	Adapter is not found .....	110
	Interrupt Check: Tx error interrupt .....	110
	Buffer RAM Check: NG .....	111
	Loopback Check #: Tx timeout .....	111
	Loopback Check #: Return Packet Timeout .....	111
	Loopback Check #: Rx Framing error .....	111
	Loopback Check #: Rx CRC error .....	111
	Loopback Check #: Tx Collision error .....	111
	Loopback Check #: Tx Carrier loss error .....	111
2	一般的なトラブル .....	112
	MS-DOS で本製品が動作しない ( EMM386.EXE ) .....	112
	CFGISA で本製品が検出できない .....	112
<b>A</b>	<b>付 録 .....</b>	<b>115</b>
1	ドライバーインストーラ (SETUP.EXE) .....	116
2	MAC アドレス † 1 .....	116
3	I/O アドレス .....	117
4	IRQ .....	117

5	RJ-45 モジュージャック (10BASE-T).....	117
6	AUI コネクター (10BASE5).....	118
7	製品仕様 .....	119
<b>B</b>	<b>保証・ユーザーサポート .....</b>	<b>121</b>
1	保証 .....	122
2	ユーザーサポート .....	122
3	調査依頼書のご記入にあたって .....	122
	ハードウェアとソフトウェア .....	123
	お問い合わせ内容 .....	123
	接続の構成図 .....	124
4	最新ドライバーソフトウェアの入手方法 .....	125
	ホームページからの入手 .....	125
	フロッピーディスクでの入手 .....	125
	<b>調査依頼書 .....</b>	<b>126</b>

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1



# 第 1 部

## 概要

第 1 部では、本製品の特長、使用環境、各部の名称と働きについて説明します。

---

# 1 CentreCOM LA-ISA V2 シリーズの概要

CentreCOM LA-ISA V2 シリーズ(以下、本製品と略します) は、ISA バスを持つ AT 互換機をイーサネットベースバンド LAN システム( 10Mbps )に接続するための製品です。本製品は「Plug & Play」機能に対応しているため、Plug & Play に対応したパソコンとオペレーティングシステム( OS )をご使用の場合は、簡単にセットアップすることができます<sup>†1</sup>。

## 1.1 製品バリエーション

本製品には、下記の 2 つのバリエーションがあります。

LA-ISA-T V2

RJ-45 モジュージャックを持ち、10BASE-T に接続することができます。

LA-ISA-25T

RJ-45 モジュージャック、BNC コネクター、AUI コネクターの 3 つを持ち、10BASE-T、10BASE2、10BASE5 に接続することができます。

## 1.2 本製品の特長

- (1) I/O アクセス方式を採用
- (2) Plug & Play 機能によるオートコンフィグレーション：  
I/O アドレス、インタラプトレベルの自動設定
- (3) セットアッププログラムにより、次の 2 つのモードが設定可能：  
ISA バス Plug & Play 仕様(Plug & Play モード)  
従来の ISA バス仕様(従来互換機モード、Legacy モード)
- (4) セットアッププログラムにより全二重通信が可能( Full-Duplex )

---

† 1 Plug & Play に対応していないパソコンをご使用の場合は、Plug & Play モードではなく、従来互換モードである Legacy モードで動作させなければならないことがあります。

## 1.3 各部の名称と働き

図 1.3.1、図 1.3.2 をもとに LA-ISA-T、LA-ISA-25T の主要な部分の名称と働きを説明します。

- (1) **RJ-45 モジュージャック**  
UTP ケーブル( シールドなしツイストペアケーブル )を接続するコネクタ-です。
- (2) **MAC アドレス**  
本製品の MAC アドレスが記載されています。付録 A に物理アドレスに関する情報があります。
- (3) **ブート ROM ソケット**  
ブート ROM を取り付けるためのソケットです。現時点では、ブート ROM 機能はサポートしておりません。
- (4) **ISA バスコネクタ-**  
本製品とパソコンをインターフェ-スするためのコネクタ-です。
- (5) **LINK ランプ( 緑 )**  
本製品とネットワークをケーブルで接続し、通信が正常に行なわれている場合に点灯します。
- (6) **シリアル番号 / 製品リビジョン**  
製品のシリアル番号( 製造番号 )とリビジョンが記入されています。同じものが、3 枚程同梱されており、パッケージ( 外箱 )にも貼付されています。同梱されているシリアル番号ラベルは、「お客様インフォメ-ション登録カード」と「永久保証書」に貼付してください( 残る 1 枚は予備です )。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせ時に必要な情報です。
- (7) **BNC コネクタ-**  
10BASE2 ケーブルを接続するコネクタ-です。ケーブルを接続するためには、他に T 字コネクタ-やターミネ-タ-が必要です。このコネクタ-は、LA-ISA-25T のみが持っています。
- (8) **AUI コネクタ-**  
本製品をトランシーバ- ( 10BASE5 ) に接続するためのコネクタ-です。このコネクタ-は、LA-ISA-25T のみが持っています。



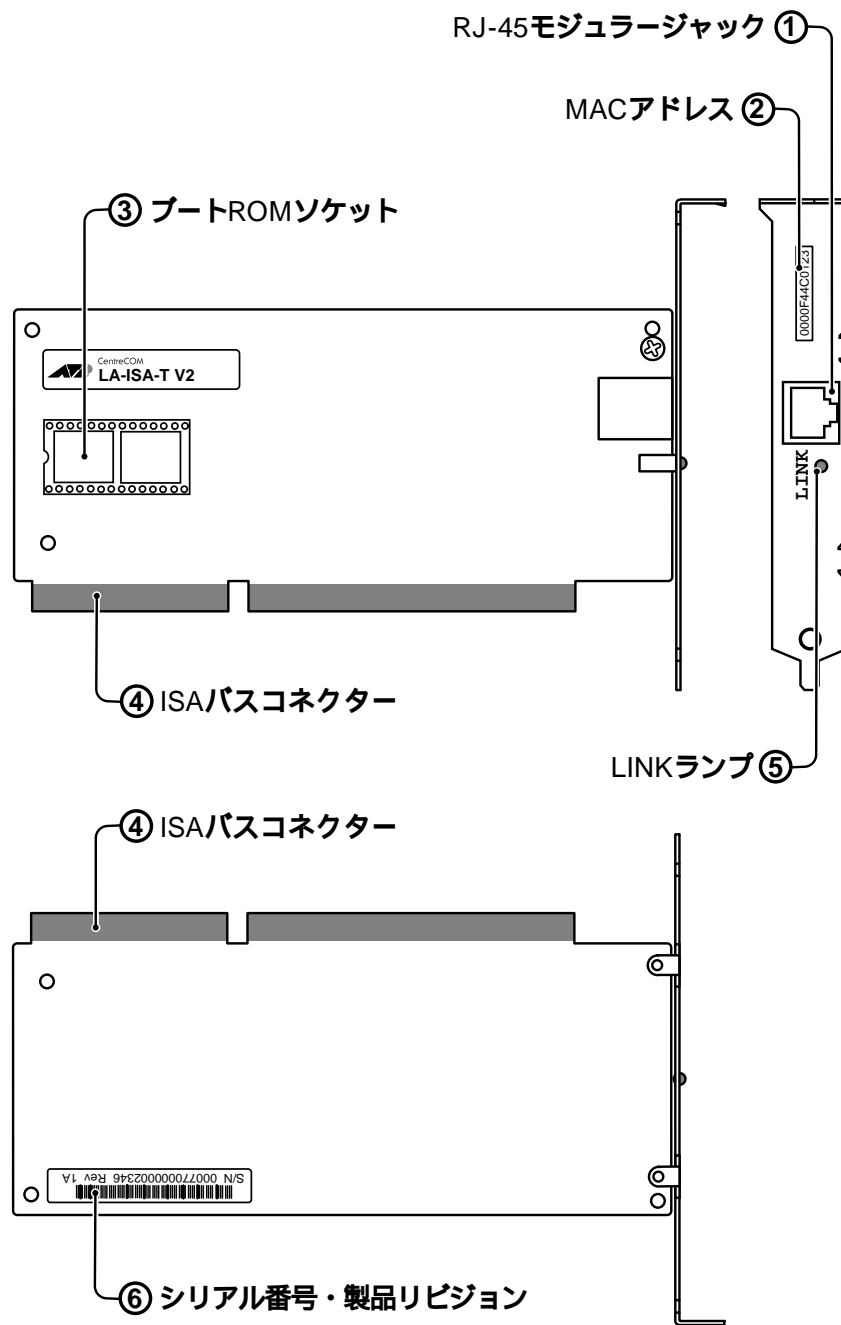


図 1.3.1 LA-ISA-T V2 外観図

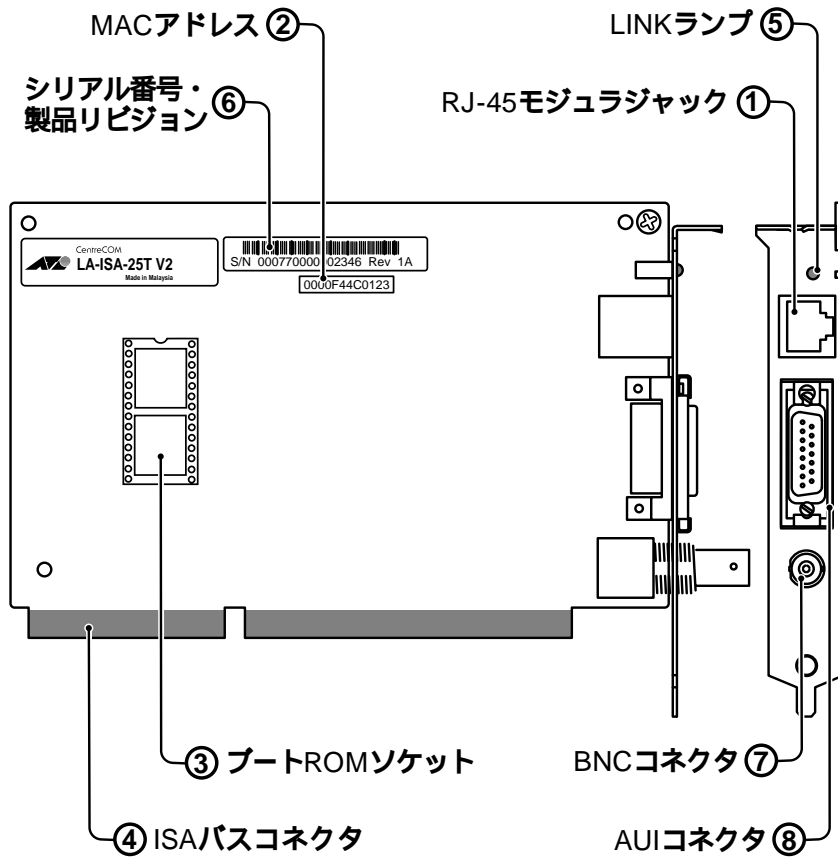


図 1.3.2 LA-ISA-25T V2 外観図

## 1.4 付属ドライバーやユーティリティ

本製品のドライバーディスクには、以下のドライバーが含まれています。このマニュアルの内容よりもさらに詳しい情報が必要な場合は、ドライバーディスクに含まれる「README.\*」ファイル<sup>†1</sup>をご覧ください。また、README.\*には、このマニュアルに記載されていない最新の情報が書かれています。

- ・ Windows95 用 NDIS ドライバー
- ・ Windows NT 用 NDIS ドライバー( Windows NT 3.5 以上に対応 )
- ・ NetWare サーバー用ドライバー( NetWare 3.12J、4.1J、4.11J用の3点 )
- ・ NetWare DOSクライアント用ドライバー( NetWare 3.12J、4.1J、4.11J、NetWare Lite 用の4点 )
- ・ LAN Manager DOS クライアント用ドライバー( DOS NDIS ドライバー )
- ・ パケットドライバー

また、以下のユーティリティプログラムが含まれています。

- ・ ハードウェア診断プログラム「ETHDIAG.EXE」
- ・ Plug & Playに対応していないパソコンで本製品を使うためのユーティリティ「LAISAACT.EXE」
- ・ DOS ドライバー・インストール・ユーティリティ「SETUP.EXE」

---

† 1 ※README.1ST( Read me first. )ファイルには、ドライバーディスクの詳細なディレクトリ構造やドライバーディスク全体に関わることが記載されています。各ディレクトリの中には、それぞれのドライバーに関連する README ファイルが存在します。

# 第 2 部

## 設置・配線

第 2 部では、本製品をパソコンに取り付け、イーサネットに接続するまでの手順を紹介します。

# 1 本製品の組み込み

以下に示す手順を参考に本製品をパソコンの拡張スロットに取り付けてください。拡張アダプターの取り付け方は、パソコン機種によって異なります。取り付け方の詳細は、ご使用になるパソコンのマニュアルをご覧ください。

## 1.1 パソコンへの組み込み

- (1) 本体の電源をオフにしてください。
- (2) 安全のために電源プラグを電源コンセントから抜いてください。



パソコンの拡張スロットに本製品を実装する作業は、必ずパソコンの電源を切って行ってください。電源を投入したままこの作業を行うとパソコンや本製品の故障の原因となります。

- (3) パソコンの天板を外してください。
- (4) スロットカバーを固定しているねじを外し、スロットカバーを外してください。
- (5) 本製品を拡張スロットにしっかり奥まで差し込んでください。



本製品は静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、拡張スロット接続コネクターの接点、部品などに素手で触れないでください。

- (6) (5)で外したねじを使用して、本製品を固定してください。このねじは必ず取り付けてください。
- (7) パソコンの天板を取り付けてください。

## 1.2 パソコンからの取り外し

- (1) 本製品の組み込み手順の(1)～(3)と同様に、パソコン本体の天版を外します。
- (2) 本製品を固定しているねじを外します。
- (3) 本製品をゆっくり引き抜きます。引き抜く時は左右に振らずに真っすぐ引き抜いてください。



本製品は静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、拡張スロット接続コネクタの接点、部品などに素手で触れないでください。

- (4) スロットカバーを元どおりに取り付けてください。
- (5) パソコンの天板を取り付けてください。

## 2 ネットワークに接続する



稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

### 2.1 10BASE-T

ここでは例として、本製品をハブと接続する場合について説明します。

- (1) UTP ケーブル<sup>†1</sup> の一方の端に付いたプラグを、本製品の RJ-45 モジュラージャックにカチッと音がするまで差し込んでください。両端のプラグのどちらを差し込んでかまいません。
- (2) UTP ケーブルを引っ張ってみて抜けないことを確認してください。
- (3) UTP ケーブルのもう一方の端に付いたプラグをハブのモジュラージャック (PORT と表記されている場合もあります) に差し込んでください。手順は、上記(1)(2)と同様です。

UTP ケーブルの外し方

プラグの爪を指で押えながら手前に引くと、プラグを抜くことができます。

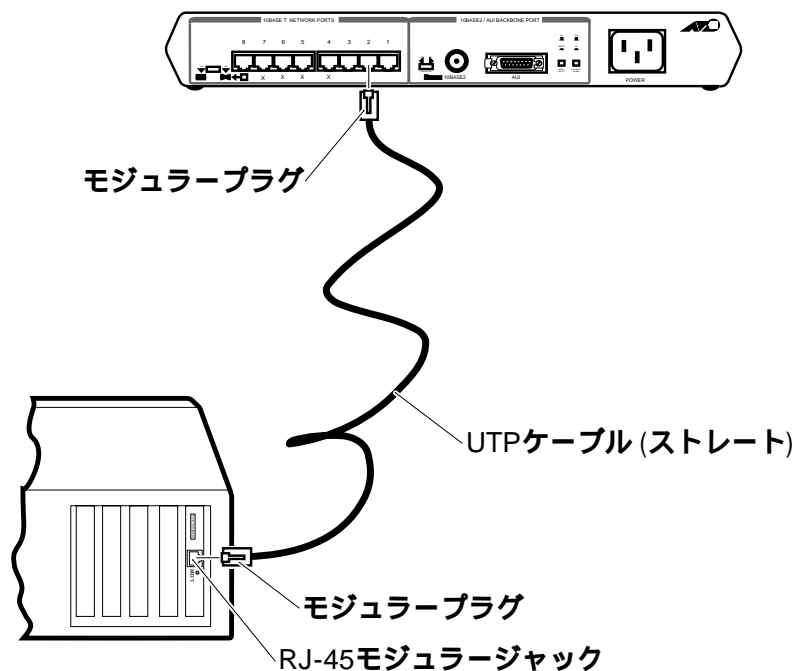


図 2.1.1

†1 UTP ケーブル(シールドなしツイストペアケーブル)は、カテゴリ 3 以上のもので、ストレートタイプをご使用ください。

## ハブとアダプターがリンクしていることの確認

ハブとパソコンの両方に電源を投入し、ハブと本製品の両方のLINKランプが点灯することで確認できます。どちらか一方しか点灯していない、または両方とも点灯しない場合は、本製品とハブは正しくリンクしていません。その場合は、UTPケーブルの断線、適切なケーブルを使用していないなどの原因が考えられます。



## 2.2 10BASE2

LA-ISA-25T を 10BASE2<sup>†1</sup> ネットワークに接続するには、下記の手順を実行してください。また、そのためには別途「T字コネクタ」と「10BASE2 ケーブル (シンワイヤ同軸ケーブル)」が必要です。

- (1) T字コネクタを本製品のBNCコネクタに差し込み、ギザギザの部分を持って押しながら右に回してください。T字コネクタはロックされ、抜けなくなります。
- (2) 手順(1)で取り付けしたT字コネクタの両端に、10BASE2 ケーブルのBNCコネクタを接続します。LA-ISA-25T が 10BASE2 ネットワークの一番端のマシンに取り付けられる場合、T字コネクタの一方の端は『10BASE2 用のターミネータ (終端抵抗器)』を取り付けてください。

10BASE2 ケーブル、T字コネクタ、ターミネータの外し方  
コネクタのギザギザの部分を持って、押しながら左に回してロックを外し、引っ張ってください。コネクタ(10BASE2 ケーブル、T字コネクタ、ターミネータ)が外れます。

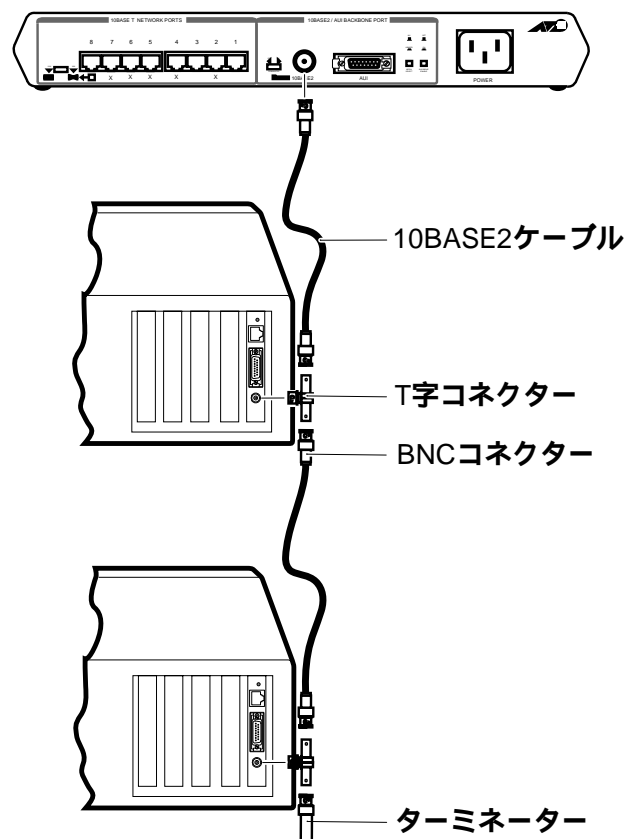


図 2.2.1<sup>†2</sup>

## 2.3 10BASE5

LA-ISA-25T を弊社トランシーバー 『CentreCOM 100 SERIES』 に接続する例を説明します。下記の手順を実行してください。

- (1) AUI ケーブル (トランシーバーケーブル) のスライドロックの無い方のコネクタを本製品の AUI コネクタに差し込んでください。
- (2) LA-ISA-25T の AUI コネクタのスライドロックをスライドさせ、ケーブルをロックしてください。
- (3) AUI ケーブルのもう一方のコネクタをトランシーバーの AUI コネクタに差し込んでください。
- (4) ケーブルのスライドロックをスライドさせ、ケーブルをロックしてください。

トランシーバーの SQE TEST(HB:ハートビート)スイッチは、『0』または『1』のどちらでもかまいません。

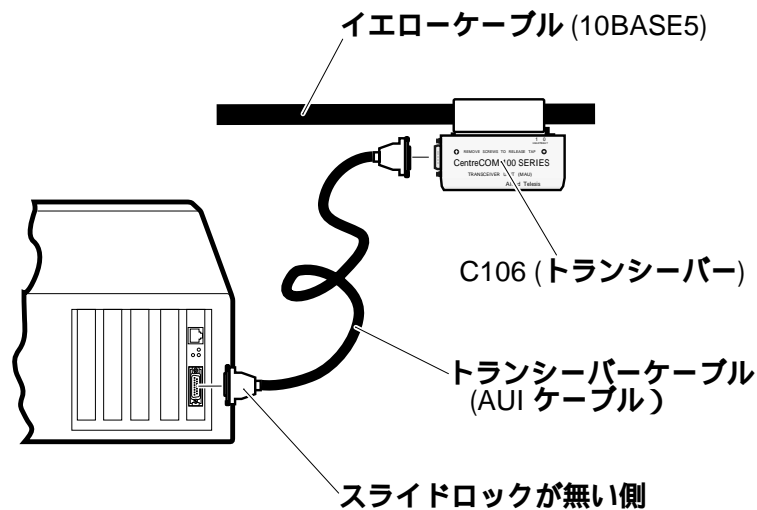


図 2.3.1

- 
- † 1 10BASE2 は、シンイーサネットや、チーパーネットと呼ばれることがあります。
  - † 2 この図におけるハブは、ターミネーターを内蔵しているタイプを想定しています。ターミネーターを内蔵していないハブをご使用の場合は、別途 T 字コネクタとターミネーターを用意し、図 2.2.1 の下側のパソコンのように接続しなければなりません。







## 2 アダプターの設定・CFGISA.EXE

アダプター設定プログラム「CFGISA.EXE」は、以下の機能をもつプログラムで、「MS-DOS」またはWindows95の「DOSプロンプトのみ」のモードで実行することができます<sup>†1</sup>。

Plug & Play モード、Legacy モードの切り替え  
Legacy モードにおける I/O アドレス、インタラプトの設定  
全2重と半2重の切り替え

- (1) 本製品をパソコンに取り付けた状態で、Windows95またはMS-DOSを起動してください。MS-DOSの場合は、(4)に進んでください。
- (2) 画面に「Starting windows95...」または「Windows95を起動しています...」というメッセージが表示されたら、キーボードの「F8」キーを押してください。
- (3) 「Microsoft Windows 95 Startup Menu」から「Command prompt only」または「コマンドプロンプトのみ」を選択してください。
- (4) 本製品のドライバーディスクをフロッピードライブに挿入し、アダプター設定プログラムを起動します。ここでは、フロッピードライブをA:と仮定します。

```
C:¥>A:  
A:¥>CFGISA
```

- (5) 以下のような「項目選択」画面が表示されます。本製品のハードウェア設定を変更する場合は、「Lan Adapterの設定変更」を選択します(選択は、カーソルキー「↑」「↓」で行います)。作業を中止する場合は、「ESC」キーを押してください。メッセージ表示後、プログラムが終了します。

項目を選んで下さい

Lan Adapter の設定変更  
ドライバソフトの設定変更<sup>†2</sup>  
Lan Adapter の自己診断<sup>†3</sup>

†1 **重要** CFGISA.EXE は、Windows95 や WindowsNT の中から起動された「MS-DOS プロンプト」上では実行できません。また、MS-DOS において DOS 用ドライバーが常駐しているときも、CFGISA.EXE は実行できません。

†2 MS-DOS 用のクライアントドライバーの設定を変更するメニューです。

†3 試験結果だけが表示されます。詳細な情報を得る場合は、「ETHDIAG.EXE」を使用してください。

- (6) 現在の I/O アドレスを選択してください。設定値を忘れてしまった<sup>†1</sup>場合は、「Auto Scan Start」を選択してください( Auto Scan Start が現れるまで下にカーソルを移動させてください)。この画面は、現在の設定が「Legacy」のときに表示されます。「Plug & Play」(工場出荷時設定)では表示されません。

現在の I/O Base Address を選択して下さい。

0x260 - 0x27F  
 0x280 - 0x29F  
 0x2A0 - 0x2BF  
 0x2C0 - 0x2DF  
 0x2E0 - 0x2EF  
 Auto Scan Start

### Plug & Play、Legacy の選択

- (7) 第3部「1 アダプターの設定のための準備」にしたがって、「Plug & Play」または「Legacy」を選択してください。工場出荷時設定では、「Plug & Play」となっています。ここで「Plug & Play」を選択すると、手順(10)に進みます。

ボードのタイプを選択して下さい。

Legacy  
 Plug & Play

### I/O アドレス、インタラプトの設定

- (8) 数値の先頭の「\*」、「!」マークに注意し、他の拡張アダプターの設定と重複しないように、新たな I/O アドレスを選択してください。また、この設定値は、ドライバをインストールするときに使用しますので、記録しておいてください。

\* .... 本製品の現在の設定値です(工場出荷時設定値は 0x300 - 0x31F)。

! ..... 現時点において既に、他の拡張アダプターで使用されているアドレスです。本製品ののための新たな I/O アドレスとして使用できません<sup>†2</sup>。

†1 本製品を Legacy モードで動作させているとき、この画面の「Auto Scan Start」を選択することによって、現在の設定値を確認することができます。手順(8)で現在の設定値を確認したら、「ESC」キーを押して終了してください。現在の設定は変更されません。

†2 数値が既に他で使用されていることを CFGISA が検出できなかった場合、「!」マークが付きません。必ずしも、パソコン自身や他の拡張アダプターで使用されていないアドレスではありません。「!」が付いていなくても使用されている可能性がありますので、パソコンのマニュアルでご確認ください。

現在の Lan Adapter の設定値  
I/O Base address = 0x300    IRQ = A

新たな I/O Base Address を選択して下さい。

- \* 0x300 - 0x31F
- 0x320 - 0x33F
- 0x340 - 0x35F
- ! 0x360 - 0x37F
- 0x380 - 0x39F
- 0x3A0 - 0x3BF

- (9) インタラプトレベルを選択します。先頭の「\*」は、本製品の現在の設定値です( Legacy モードにおける工場出荷時設定値は IRQ A )。他の拡張アダプターの設定と重複しないように設定してください<sup>†1</sup>。

現在の Lan Adapter の設定値  
I/O Base address = 0x300    IRQ = A

インタラプトレベルを選択して下さい。

- \* IRQ A
- IRQ B
- IRQ C
- IRQ F

## ネットワークメディアの選択

- (10) LA-ISA-25T V2 の場合、接続形態を選択します( LA-ISA-T V2 では表示されません )。デフォルトは「Auto( 10Base2/10BaseT )」です。

接続形態を選択して下さい。

- Auto( 10Base2/10BaseT )
- 10Base5

† 1 数値が既に他で使用されていることを CFGISA が検出できなかった場合、「!」マークが付きます。必ずしも、パソコン自身や他の拡張アダプターで使用されていない IRQ ではありません。「!」が付いていなくても使用されている可能性がありますので、パソコンのマニュアルでご確認ください。



## 回線方式の選択

- (11) 回線方式を選択します。通常のハブに接続するのであれば、「Half Duplex」<sup>†1</sup> (工場出荷時設定)を選択してください。回線方式の変更は、LAISAのみで実行可能です<sup>†2</sup>。また、LA-ISA-25T V2 で、10BASE2 または 10BASE5 をご使用になる場合、回線方式は無視されます。

回線方式を選択して下さい。

Half Duplex  
Full Duplex

- (12) 設定が完了すると、変更前の設定値と変更後の値を画面上に表示します。

## ハードウェアリセット

- (13) パソコンのリセットスイッチを押すか、電源を一旦オフにし、再度オンにしてください。本製品がリセットされ、(1)～(12)で施した設定が有効となります<sup>†3</sup>。

- 
- †1 一般的に、「Full Duplex」は「スイッチ」と呼ばれる製品でサポートされています。本製品の回線方式は、接続する装置に合わせなければなりません。回線方式が適切でない場合、コリジョンが多発するなどの障害が発生します。
- †2 Windows95、Windows NT にインストールした後で回線方式を変更する場合は、パソコンを再起動し、CFGISA を実行してください。
- †3 CTRL+ALT+DELによるリセットでは、本製品が完全にリセットされず、(1)～(12)で施した設定が有効にならないことがあります。

## 3 MS-DOS・Windows 3.1 における Plug & Play

Plug & Play 対応パソコンのもとで MS-DOS、Windows 3.1 をご使用の場合、次の点をご確認ください。

### 3.1 dwcfgmg.sys の組み込み

Plug & Play 機能を実現するためには、お使いのパソコンに付属している Configuration Manager (CM) が必要です。このソフトウェアは、「Plug & Play 対応のパソコン」と「Plug & Play 対応の拡張アダプター」とで構成されたシステムを動作させる重要な役割をもっています。

ここでは、Configuration Manager のファイル名を「dwcfgmg.sys」<sup>†1</sup> と仮定します。組み込み手順の詳細は、ご使用のパソコンのマニュアルをご覧ください。

- (1) 「dwcfgmg.sys」を config.sys に組み込んでください (このデバイスドライバの記述行が config.sys の 1 行目がないと正常に動作しないパソコンも存在します。記述行の位置にご注意ください)。
- (2) パソコンをリセットしてください。
- (3) パソコン起動時に、次のようなメッセージが表示されます<sup>†2</sup>。

```
Found Plug and Play ISA card: ALLIED TELESIS, K.K. LA-ISA V2  
The Plug and Play ISA card has been successfully configured.
```

†1 Configuration Manager: このファイル名は、DELL 製の OptiPlex XMT 5133 という機種における例です。しかしながら、たいていのパソコンにおいて「dwcfgmg.sys」というファイル名が使用されています (COMPAQ 製品の場合は、「cqpcm.sys」となっています)。

†2 このメッセージは、DELL 製の OptiPlex XMT 5133 という機種における例です。

## 3.2 EMS メモリマネージャのバージョン (emm386.exe)

Plug & Play BIOS の一部の機能が、EMS メモリマネージャ( emm386.exe など )に依存しています。そのため、MS-DOS、Windows 3.1 の環境によって Plug & Play BIOS が動作しなくなり、本製品も動作しないという障害が起こることがあります(これは、Plug & Play 対応のアダプター全般に関する問題です)。

ご使用のパソコンに動作上の不具合が生じた場合、emm386.exe の最新バージョン ( Ver. 4.49 以上 ) を使用すると正常に動作することがあります。詳細は、第 11 部「 2 一般的なトラブル・MS-DOS で本製品が動作しない 」をご覧ください。

# 第4部

## Windows95

第4部では、本製品のドライバーを Windows95 にインストールする手順を説明します。

Windows95 には、下記の3種類のバージョンがあります。

Version950

VersionA

VersionB

各バージョンによって、本製品のドライバー・インストール時に表示されるメッセージが異なります。第4部「2 Windows95 のバージョン確認」をお読みになり、ご使用の Windows95 のバージョンをご確認ください。

各項目の説明は「LA-ISA-25T V2」をもとにしています。「LA-ISA-T V2」をご使用の場合は、文字列を「LA-ISA-T V2」に読み替えてください。また、「LA-ISA-25T V2」または「LA-ISA-T V2」のどちらか一方にしか適用できない事柄は明記されています。

# 1 準備

インストールを始める前に、以下のものをご用意ください。

1. LA-ISA-T V2 または LA-ISA-25T V2 アダプター
2. パソコン( Windows95 がインストール済みのものをご用意ください)
3. Windows95 の供給ディスク( CD-ROM またはフロッピーディスク)
4. LA-ISA V2 ドライバーディスク( 本製品に付属)



**重要:** ご使用のパソコンのOSが**プリインストール版**であり、バックアップCD-ROMが付属していない場合は、必ずフロッピーディスクにバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。



ここに挙げた手順は一例です。お客様の環境によっては、手順が若干異なることがあります。

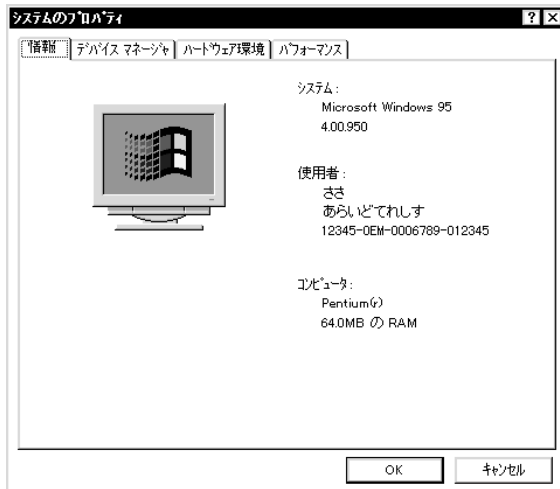
## 2 Windows95 のバージョン確認

初めに、ご使用のWindows95のバージョンをコントロールパネルで確認してください。各バージョンによって、インストール時に表示されるメッセージが異なります。

1. 「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」 「システム」をクリックしてください。
2. 「システムのプロパティ」ダイアログが現れます。「情報」タブをクリックしてください。

## Version950

「システム:」の番号が「4.00.950」であれば Version950 です。



1.1

## VersionA

「システム:」の番号が「4.00.950a」であれば VersionA です。



1.2

## VersionB

「システム:」の番号が「4.00.950 B」であれば VersionB です。



1.3

### 3 ドライバーのインストール

1. Windows95 を終了させ、パソコンの電源をオフにしてください。さらに、安全のためにパソコンの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
2. パソコンの拡張スロットに本製品を取り付けてください。

取り付けの手順については、第2部「設置・配線」やご使用のパソコンのマニュアルをご覧ください。

3. パソコンの電源プラグを電源コンセントに差し、パソコンの電源をオンにして、Windows95 を起動してください。
4. Windows95 は本製品を自動的に検出しますが、Windows95 のバージョンによって表示されるダイアログが異なります。

#### Version950 または VersionA の場合

Windows95 は、「新しいハードウェア」ダイアログに「Allied Telesis. K.K.-CentreCOM LA-ISA V2」の名前を表示します。「ハードウェアの製造元が提供するドライバ(M)」を選択し、「OK」をクリックしてください<sup>†1</sup>。

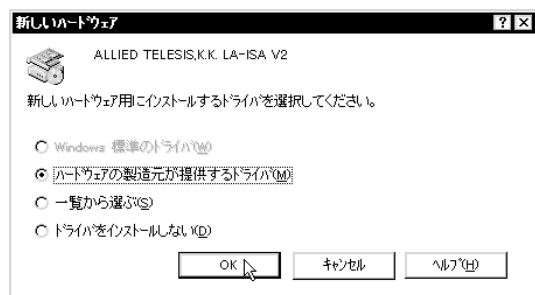


図 3.1

#### VersionB の場合

Windows95 は、「デバイスドライバウイザード」を起動します。LA-ISA V2 ドライバードискをフロッピードライブに挿入し、「次へ」をクリックしてください。

† 1 「一覧から選ぶ」を選択しないでください。LA-ISA V2 は、Windows95 の供給メディア( CD-ROM やフロッピーディスク )に含まれている LA-ISA 用のドライバーでは動作しません。



図 3.2

- Version950またはVersionAの場合は、「フロッピーディスクからインストール」が表示されます。フロッピーディスクドライブにドライバーディスクを入れ「A:¥windows.95」(または「A:¥」)と入力して、「OK」をクリックします。(ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。)

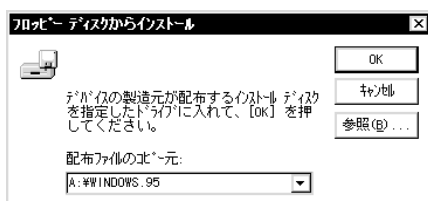


図 3.3

VersionB の場合は、4. の時点でドライバーディスクをフロッピードライブに入れて置くことによって、適切なドライバーが自動検索されます。次のダイアログが表示されたら「完了」をクリックしてください<sup>†1</sup>。



図 3.4

† 1 自動検索を行わず「場所の指定」ボタンを使ってディレクトリを直接選択することもできます。この場合は、ディレクトリ名として「A:¥windows.95」を選択してください。



6. ご使用のパソコンに初めてネットワークアダプターをインストールする場合は下のダイアログが表示されます。内容を読んだ上で「OK」をクリックしてください。このダイアログが表示されない場合は、8. に進んでください。

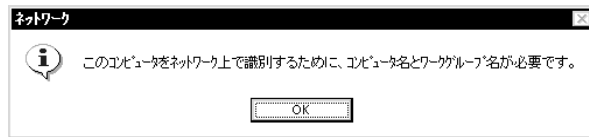


図 3.5

7. 続いて下のダイアログが表示されます<sup>†1</sup>。ネットワーク管理者に確認の上、パソコン名、ワークグループ名<sup>†2</sup>およびパソコンの説明(省略可)を入力してください。

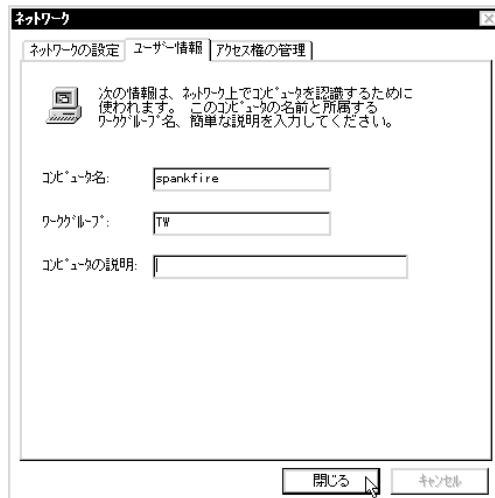


図 3.6

8. ドライバーおよび必要なWindows95のファイルがハードディスクにコピーされます。コピーの途中でWindows95の供給ディスクが要求される場合は、ご使用のWindows95の形態に応じて以下のようにパスを入力してください。

#### プリインストール版 Windows95 の場合

この場合はWindows95ファイルが既にハードディスクにコピーされています。ダイアログではディスクを入れるように要求されますが、そのまま「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、「C:¥windows¥options¥cabs」を指定してください。ここではWindows95の起動ディスクパーティションをC:と仮定します。

- 
- †1 このダイアログの内容をインストール後に変更する場合は「ネットワーク」(コントロールパネル)を起動し、「ユーザー情報」タブを選択してください。
- †2 パソコン名およびワークグループ名の入力には15字以下の半角文字を使用します。詳細はWindows95のマニュアルおよびオンラインヘルプをご覧ください。

機種によっては¥windows¥options¥cabsと異なる場所に保存されていることもあります。その場合はパソコンのマニュアルをご覧になるか、検索コマンドにより拡張子「cab」のファイルが存在するディレクトリを探し、そのディレクトリパスを指定してください。

#### CD-ROM の場合

CD-ROM をドライブに挿入し、「E:¥WIN95」を入力してください。ここでは、CD-ROM ドライブを E:と仮定します。

#### フロッピーディスクの場合

現在挿入されているドライバーディスクを取り出し、指示された番号のディスクをフロッピーディスクドライブに入れて、「ファイルのコピー (C):」で「A:¥」を入力してください。(ここではフロッピーディスクドライブを A:と仮定します。)



図 3.7 フロッピーディスクの要求画面



図 3.8 ファイルのコピー(フロッピーディスクの場合)

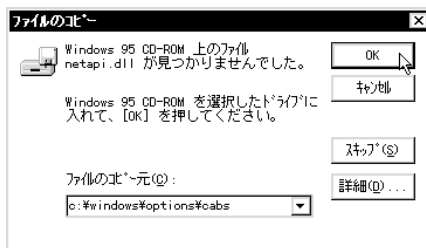


図 3.9 ファイルの所在の指定(プリインストール版)

9. (重要)「LAISAV2.SYSが見つからないのでWindows95のCD-ROMやフロッピーディスクを入れてください」というようなダイアログが表示される場合は、ドライバディスクをフロッピードライブに入れ、ディレクトリとして「A:¥windows.95」(または「A:¥」)を入力してください。「LAISAV2.SYS」は**ドライバディスク**に収められているファイルです。ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。

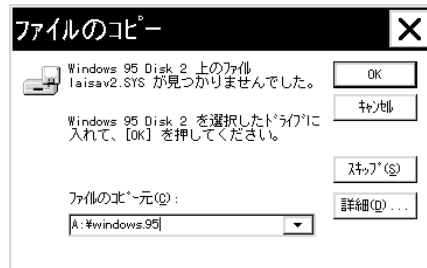


図 3.10 laisa.dos の要求(例)

10. 「システム設定の変更」が表示されます。「今すぐ再起動しますか?」という問いに対して、「はい(Y)」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、パソコンを再起動します。

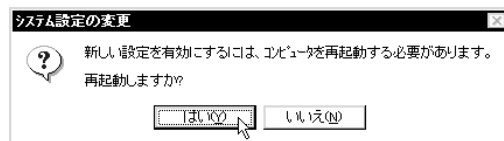


図 3.11 システム設定の変更

11. 以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き、「4 インストールの確認とアダプターの設定」にお進みください。

## 4 インストールの確認とアダプターの設定

再起動したら、最初にドライバーのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

### 4.1 デバイスマネージャ

#### インストールの確認

「コントロールパネル」の「システム」をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックしてください<sup>†1</sup>。インストールが正常に行われていれば「ネットワークアダプタ」の下に「ATKK LA-ISA-T\_V2 PNP ISA Ethernet」または「ATKK LA-ISA-25T\_V2 PNP ISA Ethernet」が表示されます。

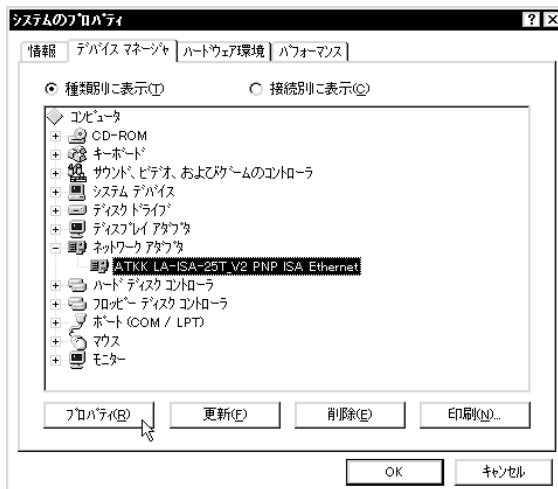


図 4.1.1

本製品のアイコンに「×」「?」「!」などのマークがついていたり、あるいはアイコンが「ネットワークアダプタ」の下ではなく「不明なデバイス」や「その他のデバイス」にある場合は、インストールに失敗しています。詳しくは第4部「6 トラブルシューティング」をご覧ください。

†1 Windows95 Version950/A では「OK」は「閉じる」となります。

次に、デバイスマネージャで「ATKK LA-ISA-T\_V2 PNP ISA Ethernet」または「ATKK LA-ISA-25T\_V2 PNP ISA Ethernet」を選択(反転表示)し、「プロパティ」「情報」と進みます。「デバイスの状態」で「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認ください。



図 4.1.2 デバイスの状態 (Version 950/A)



図 4.1.3 デバイスの状態 (Version B)

Windows95 VersionB をご使用の場合( 図 4.1.4 )は「ドライバ」タブが用意されています。この「ドライバ」を表示した場合、下のように「このデバイスには、ドライバファイルは必要でないか、または組み込まれていません。」という記述がありますが、これは本製品の仕様によるもので、ご使用には支障ありませんので安心してご使用ください。



図 4.1.4 VersionB の「ドライバ」タブ

## リソースの確認

本製品が使用する I/O ベースアドレス、インタラプト(IRQ)などのリソースは、Windows95 によって自動的に設定されます。これらの値を確認するには「デバイスマネージャ」「ネットワークアダプタ」「ATKK LA-ISA-25T\_V2 PNP ISA Ethernet」「プロパティ」「リソース」と進んでください。



図 4.1.5 リソースの確認

## 4.2 ネットワーク（コントロールパネル）

### ネットワーク環境の設定

「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動し、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。詳細はネットワーク管理者にご確認ください。



図 4.2.1

### ドライバの設定

本製品に関する設定を行います。図 4.2.1 で「ATKK LA-ISA-25T\_V2 PNP ISA Ethernet」を選択しておき、「プロパティ」をクリックしてください。「ATKK LA-ISA-25T\_V2 PNP ISA Ethernet のプロパティ」ダイアログが現れます。「ドライバの種類」を選択し、「エンハンスモード」(デフォルト)に設定します。

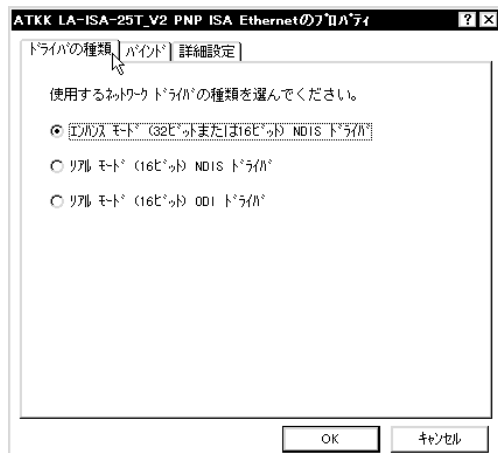


図 4.2.2

## ネットワークメディアの設定

「LA-ISA-25T」をご使用の場合にだけ意味を持つ設定です(「LA-ISA-T」は10BASE-Tのみを持ち、メディアの選択肢はありません)。「詳細設定」タブでネットワークメディアの設定を行います。「値(V)」リストからご使用の環境に合ったものを選択します。詳細はシステム管理者にご確認ください<sup>†1</sup>。

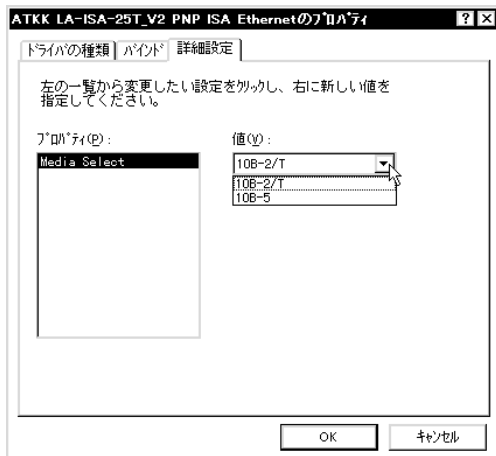


図 4.2.3 ネットワークメディアの設定

各項目の意味は以下の通りです。

### 10B-2/T

ネットワークメディアとして、10BASE2( BNC )または10BASE-T( RJ-45 モジュラージャック )を使用します。10BASE2 と10BASE-T は、ケーブル( メディア )を接続することによって自動判別されます。ただし、両方のメディアを接続した場合は、10BASE-T が優先されます。

### 10B-5

ネットワークメディアとして、10BASE5( AUI )を使用します。

† 1 10BASE-T における全2重 / 半2重( 回線方式 )は、CFGISA.EXE で変更できます。詳細は、第3部「2 アダプターの設定・CFGISA.EXE」をご覧ください。



## 5 ドライバーの削除と再インストール

ドライバーのインストールを一旦完了するとその内容は保存され、次回からはパソコンを起動するだけで本製品およびネットワークを使用できます。

ドライバーのバージョンアップの場合など、ドライバーを再インストールしたい場合は、この項の手順にしたがって一旦現ドライバーをアンインストールした後に再インストールを行います。第4部「6 トラブルシューティング」もご覧ください。

### 5.1 ドライバーの削除

ドライバーを削除する手順は以下の通りです。

- (1) 「コントロールパネル」「システム」「デバイスマネージャ」と進み、「ネットワークアダプタ」の下から項目「ATKK LA-ISA-25T\_V2 PNP ISA Ethernet」を選択し、「削除(E)」ボタンをクリックしてください。

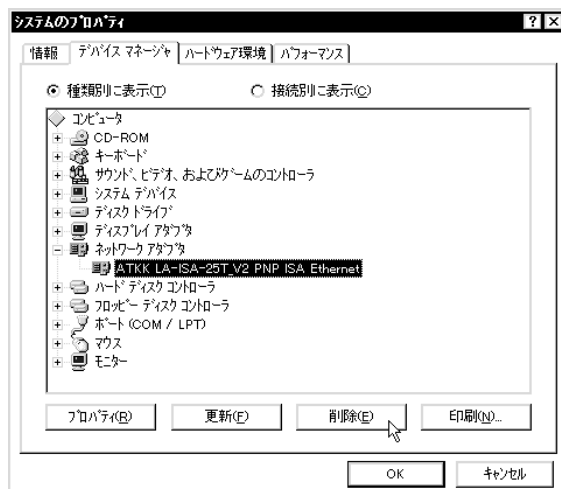


図 5.1.1 ドライバーの削除

- (2) 下のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。



図 5.1.2 デバイス削除の確認

- (3) 「ネットワークアダプタ」のアイコンが消えていることをご確認ください。

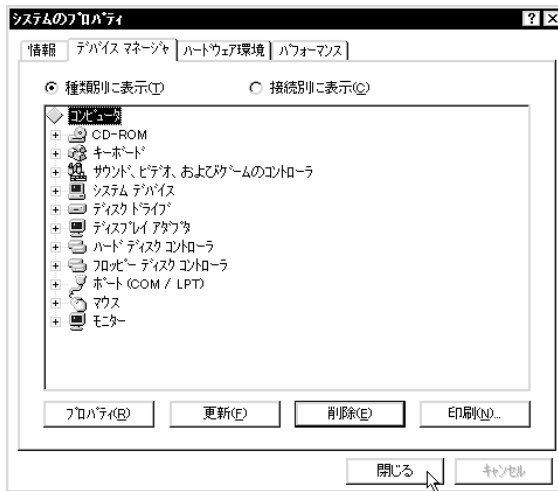


図 5.1.3 削除後のデバイスマネージャ

- (4) 以上でドライバー削除の手続きは終了です。パソコンの電源を切断し、本製品を拡張スロットから取り外してください。詳細は、第 2 部「設置・配線」をご覧ください。

## 5.2 再インストール

再び本製品のドライバーをインストールする場合の手順は、初めてインストールする場合と全く同じです。第 4 部「3 ドライバーのインストール」に戻って再びインストールを実行してください。

## 6 トラブルシューティング

この項ではドライバーのインストールに伴うトラブルの代表的な例と、その対処法について説明します。

### 6.1 デバイスマネージャでのエラー

第4部「4.1 デバイスマネージャ・インストールの確認」にしたがって確認を行ったときに、「ALLIED TELESIS,K.K. LA-ISA V2」アイコンの表示が以下のようにになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗しています。ドライバーを一旦削除し、再インストールしてください。手順は、第4部「5 ドライバーの削除と再インストール」をご覧ください。

「ネットワークアダプタ」の項目がない†1

「その他のデバイス」や「不明なデバイス」の下にアイコンが表示されている

†1†2

アイコンに「！」†3「？」†4「×」†4 マークがついている



図 6.1.1 「？」マークがついている状態

†1 この場合、以下のような操作を行ったことが考えられます。

ドライバーインストールの作業中に行われる netapi.dll などの Windows95 関連のファイルのインストールをキャンセルしてしまった。

図 3.10(LAISAV2.SYS の要求)において「キャンセル」をクリックした。

†2 以前、本製品のドライバーのインストールと削除を行ったことがあり、「新しいハードウェア」ダイアログで「ドライバをインストールしない」を選択するとこのような状況に陥ります。

†3 ドライバーのインストールを終えた後、パソコンを再起動していない場合は、「！」マークが付きます。パソコンを再起動してください。

†4 Windows95 VersionB 使用時に「×」マークがついている場合は、後述の「6.2 使用許可の切り替え」もご覧ください。

## 6.2 使用許可の切り替え (Version B のみ)

Windows95 VersionB の場合、アイコンに「×」マークがある場合は「デバイスの使用不可」に設定していることも考えられます。この場合は以下の手順にしたがって使用許可の状態を切り替えると本製品を使用できるようになります。

1. 「ATKK LA-ISA-25T\_V2 PNP ISA Ethernet」を選択(反転表示)し、「プロパティ」をクリックし、「情報」タブを表示します。
2. 「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェックを外してください。



図 6.2.1 デバイスの使用許可の切り替え

## 6.3 リソース値重複の回避

第4部「5 ドライバーの削除と再インストール」の手順にしたがってドライバーの削除および再インストール作業を行っても、なおアイコンに「?」、「!」、「×」マークが付いている場合は、他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。

特に、Plug & Playに対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値をWindows95に予め登録し(「予約」と呼びます)その値が他のPlug & Play対応デバイス(本製品を含む)によって使用されないように設定しておかなければなりません。

- (1) Plug & Play 非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値(インタラプト(IRQ)、I/O ベースアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス(DMA))を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。
- (2) 「コントロールパネル」 「システム」 「デバイスマネージャ」 「パソコン」 「パソコンのプロパティ」パネル 「リソースの予約」と進みます。
- (3) 該当する項目を選択し、「追加(A)..」をクリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。



図 6.3.1 リソースの予約(起動時)

## 6.4 本製品を Legacy モードで使う

パソコンが「Plug & Play に対応していない」とか「原因は不明だがどうしても Plug & Play で動作させることができない」または「故意に Legacy モードで動作させたい」という状況では、本製品を「Legacy」モードに設定します。この節では、本製品を Legacy モードで使用するための手順を説明します。

### 空きリソースの確認

本製品を Legacy モードで使用するためには、リソース値の重複を回避するために、あらかじめパソコンの空きリソース( 割り込み要求(IRQ) \ I/O ポートアドレス )を調べておかなければなりません。

- (1) 「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「システム」アイコンをダブルクリックしてください。
- (2) 「システムのプロパティ」ダイアログが現れます。「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「コンピュータ」を選択して、「プロパティ」ボタンをクリックしてください。

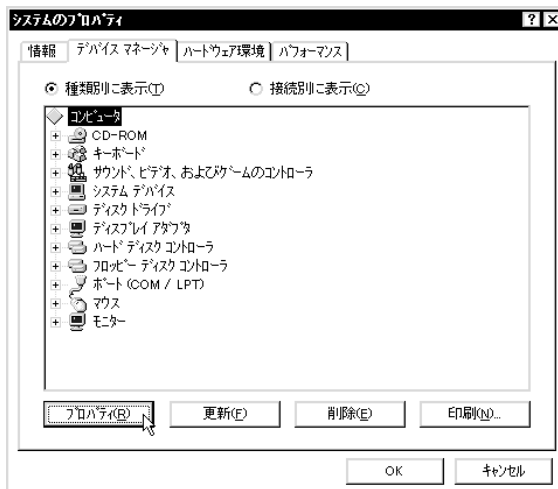


図 6.4.1

- (3) 「コンピュータのプロパティ」ダイアログが現れます。「リソースの表示」タブをクリックし、「割り込み要求(IRQ)」ラジオボタンをクリックしてください。下記の例では、「11」と「15」が空いています。



図 6.4.2

- (4) 「I/O ポートアドレス」ラジオボタンをクリックしてください。下記の例では、「0240 - 025F」、「0300 - 031F」、「0340 - 035F」などが空いています。



図 6.4.3

## 本製品の設定

アダプター設定プログラム「CFGISA.EXE」を使用し、下記のように設定します。手順の詳細は、第3部「2 アダプターの設定・CFGISA.EXE」をご覧ください。

Legacy  
インタラプト(IRQ) 11(B)  
I/O アドレス 300 - 31F

## ドライバーのインストール

ドライバーのインストールを行います。インストール時に要求される「Windows95のメディア」や「本製品のドライバーディスク(LAISAV2.SYS)」に関する注意点は、第4部「3 ドライバーのインストール」をご覧ください。

- (5) Windows95 を起動します。
- (6) 「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。
- (7) 「ネットワーク」ダイアログが現れます。「追加」ボタンをクリックしてください。



図 6.4.4



- (8) 「ネットワーク構成ファイルの追加」ダイアログが現れます。「アダプタ」を選択しておき、「追加」ボタンをクリックしてください。

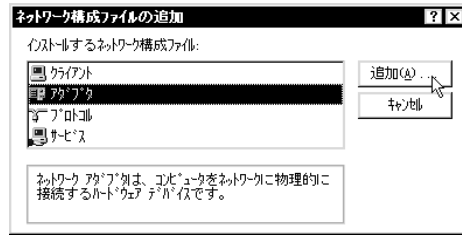


図 6.4.5

- (9) 「ネットワークアダプタの選択」ダイアログが現れます。「ディスク使用」ボタンをクリックしてください。

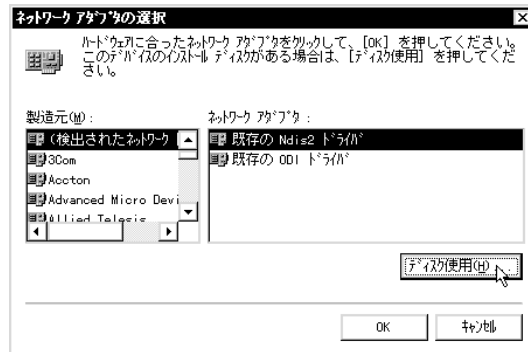


図 6.4.6

- (10) 「フロッピーディスクからインストール」ダイアログが現れます。ドライバーディスクをフロッピードライブに入れ、「A:¥windows.95」(または「A:¥」)を入力して、「OK」をクリックしてください。ここでは、フロッピードライブをA:と仮定します。

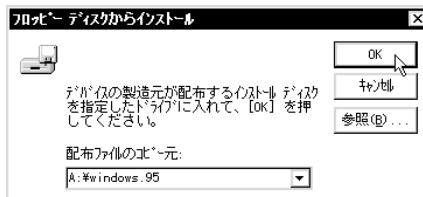


図 6.4.7

† 1 Windows95 の供給メディア( CD-ROM、フロッピーディスク )に含まれている LA-ISA のドライバー(古いバージョン)をインストールしないでください。

- (11) 「ネットワークアダプタの選択」ダイアログが現れます。ご使用の製品名に合わせて「モデル」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。ここでは、「ATKK LA-ISA-25T\_V2 PNP ISA Ethernet」を選択すると仮定します。



図 6.4.8

- (12) 「ネットワーク」ダイアログに戻り、「現在のネットワーク構成」欄に本製品のドライバーが表示されます。

## リソース確認

- (13) 本製品のドライバーを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックしてください。



図 6.4.9

- (14) 「ATKK LA-ISA-25T\_V2 PNP ISA Ethernetのプロパティ」ダイアログが現れます。「リソース」タブをクリックしてください。「設定の種類」から「現在の設定」を選択し、「割り込み要求(IRQ)」、「I/Oポートアドレス」が正しい値となっていることを確認してください。よければ「OK」ボタンをクリックしてください。

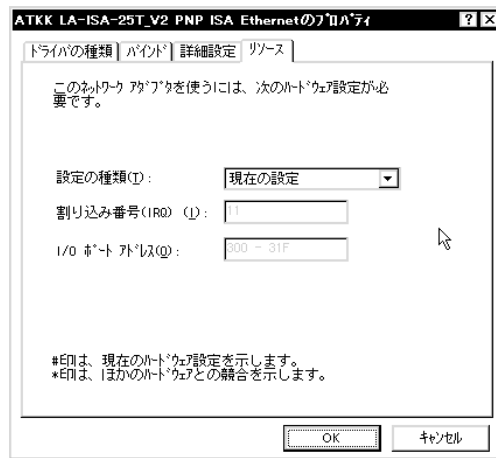


図 6.4.10

- (15) 「ネットワーク」ダイアログの「OK」ボタンをクリックしてください。
- (16) 下記のダイアログで「はい」を選択してください。Windows95 が再起動します。

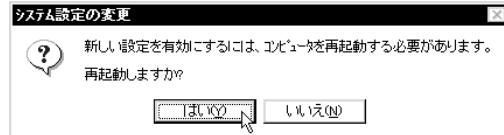


図 6.4.11



# 1 準備

インストールを始める前に、以下のものをご用意ください。

1. LA-ISA-T V2 **または** LA-ISA-25T V2 **アダプター**
2. LA-ISA V2 **ドライバディスク(本製品に付属)**
3. **パソコン**( Windows NT Version 4.0 ServerまたはWorkstationがインストール済みのものをご用意ください)



本製品のインストールは、Windows NTのインストールが完了しているパソコンに対して行ってください。Windows NTはPlug & Playをサポートしていないため、Windows NTと本製品のインストールを同時に行い、Windows NTのインストール中に本製品が使用するハードウェアリソースが他のデバイスと重複してしまうと、重複の回避に手間取ることがあります。

4. Windows NT Version 4.0( Server **または** Workstation )の供給 CD-ROM
5. Windows95 **または** MS-DOS の起動ディスク



アダプター設定プログラム「CFGISA.EXE」を実行するためにMS-DOS(またはWindows95)が必要です。ご使用のパソコンがWindows NT 4.0以外にもMS-DOSが実行できるように設定されていない場合は、「Windows95の起動ディスク」または「MS-DOSの起動ディスク」をご用意ください。

「Windows95の起動ディスク」は、Windows95を実行している他のパソコンで、「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「アプリケーションの追加と削除」「起動ディスク」タブ「ディスクの作成」ボタンをクリックすることによって作成することができます。

また、本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。各操作、設定の詳細については Windows NT のマニュアルやヘルプをご覧ください。



Windows NT のハードウェア互換性リスト( Windows NT パッケージに同梱されています )に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。



本マニュアルに記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。



本マニュアルでは、Windows NT Version 4.0 Workstation を用いて説明します。

## 2 ドライバーのインストール

以下の手順にしたがって、ドライバーのインストールを行ってください。

### 2.1 リソースの確認

本製品が使用可能なハードウェアリソース(I/O ベースアドレス、インタラプト( = IRQ ))の値を確認します。

- (1) WindowsNT が起動されていない場合は起動し、「スタート」「プログラム」「管理ツール(共通)」「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。



図 2.1.1

- (2) 「リソース」タブを選択します。最初に「IRQ(I)」の画面が表示されます。下記の例では、「2/9」、「5」、「10」、「11」が本製品で使用可能な空きです。設定可能な値の範囲は「ユーザズマニュアル」付録 A「4 IRQ」をご覧ください。

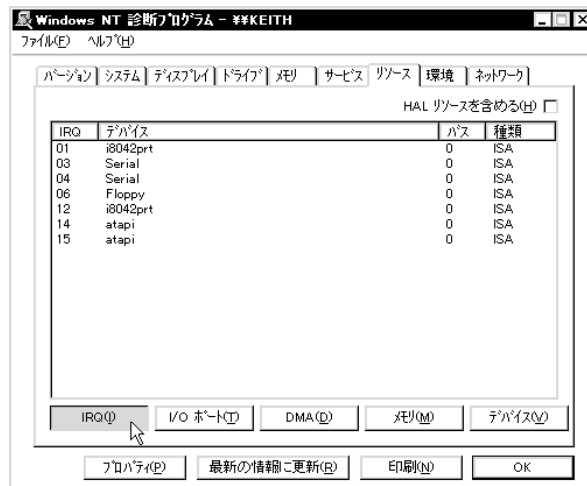


図 2.1.2

- (3) 「I/Oポート(T)」ボタンをクリックしてください。下記の例では、「240-25F」、「280-29F」、「300-31F」などが本製品で使用可能な空きです。設定可能な値の範囲は「ユーザーズマニュアル」付録A「3 I/O アドレス」をご覧ください。

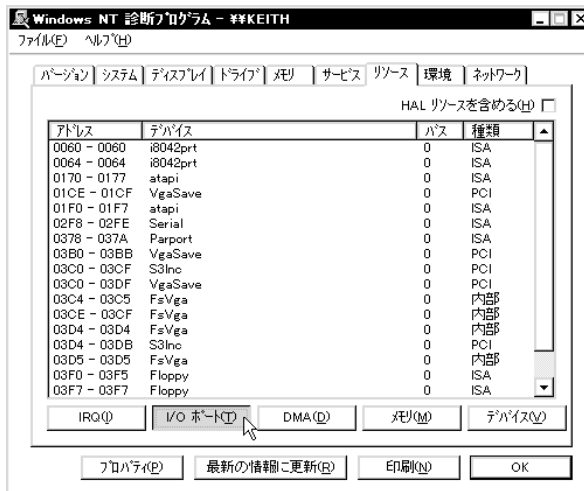


図 2.1.3

## 2.2 アダプターの設定

WindowsNT 4.0は、Plug & Playに対応していないため、アダプター設定プログラム「CFGISA.EXE」を使って本製品をLegacyモードに設定します。CFGISAは、「MS-DOS」または「Windows95のコマンドプロンプトのみ( Command Prompt Only )」のモードで実行することができます<sup>†1</sup>。

- (1) パソコンの電源をオフにした状態で、本製品をパソコンの拡張スロットに取り付けてください。詳細は、第2部「設置・配線」をご覧ください。
- (2) パソコンがMS-DOSで起動できるように設定されている場合は、MS-DOSを起動してください。そのように設定されていない場合は、あらかじめ用意しておいた「Windows95の起動ディスク」をフロッピードライブに入れ、パソコンを起動してください。
- (3) MS-DOSまたはWindows95のコマンドプロンプトのみが起動したら、本製品のドライバーディスクをフロッピードライブに入れ(または入れ替え)、次のコマンドを入力してください。ここでは、フロッピードライブをA:と仮定します。

†1 Windows95 または MS-DOS が実行できる他のパソコンで「2.2 アダプター設定」を行っておき、実際に使用するパソコンに本製品を取り付け直してから、「2.3 NDIS ドライバーのインストール」を実行することもできます。



```
C:¥>A:  
A:¥>CFGISA
```

- (4) アダプターの設定を行ってください。ここでは、以下のように設定すると仮定します。手順の詳細は、第3部「2 アダプターの設定・CFGISA」をご覧ください。

#### Legacy

WindowsNT 4.0 では、Legacy モードに設定しなければなりません。

#### I/O Base Address(I/O ポート)

「2.1 リソースの確認」で調べた値の中から「300-31F」に設定すると仮定します。「300-31F」は Legacy モードにおけるデフォルトです。

#### インタラプトレベル(IRQ)

「2.1 リソースの確認」で調べた値の中から「10(A)」に設定すると仮定します。

#### ネットワークメディア

希望のメディアを選択してください。この値は、WindowsNT で変更することができます。

#### 回線方式

「Half Duplex」(半二重)を選択すると仮定します。「Half Duplex」はデフォルトです。

- (5) パソコンの電源を入れなおすか、パソコンのリセットスイッチを押し、WindowsNT 4.0 を起動してください<sup>†1</sup>。

## 2.3 NDIS ドライバーのインストール

ここでは、「アダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合における本製品用ドライバーのインストール手順について説明します。また、ここでは、Windows NT Setupが要求する問いに対して、基本的にデフォルトで答えると仮定します。

- (1) 「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。

---

†1 CTRL+ALT+DEL キーで再起動しないでください。CTRL+ALT+DEL による再起動では、本製品が完全にリセットされず、「2.2 アダプターの設定」で施した内容が有効にならないことがあります。



図 2.3.1

- (2) 今までにネットワーク環境をインストールしたことがなければ、次のダイアログが現れます<sup>†1</sup>。「今すぐインストールしますか？」の問いに対して、「はい (Y)」をクリックしてください。

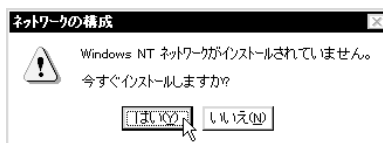


図 2.3.2

- (3) 「ネットワークセットアップウィザード」が表示されます。「ネットワークに接続 (W):」にチェックマークを付け、「次へ (N)>」をクリックしてください。

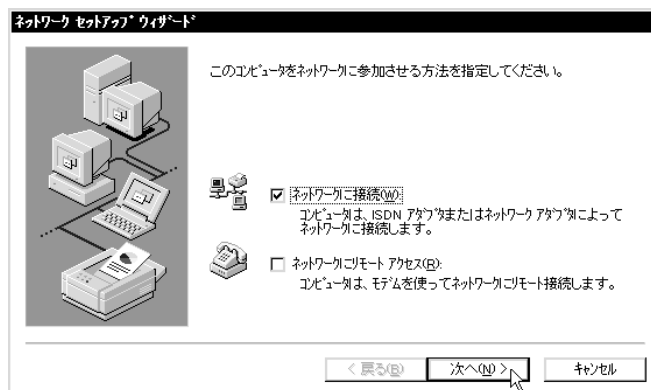


図 2.3.3

†1 このダイアログではなく「ネットワーク」ダイアログが表示される場合は、既にネットワークに関する WindowsNT ファイルがインストールされています。この場合は、「ネットワーク」ダイアログ「アダプタ」「追加」と進み、**本製品のみ**のインストールとなります(手順(5)へ)。

- (4) 「一覧から選択 (S):」をクリックしてください。

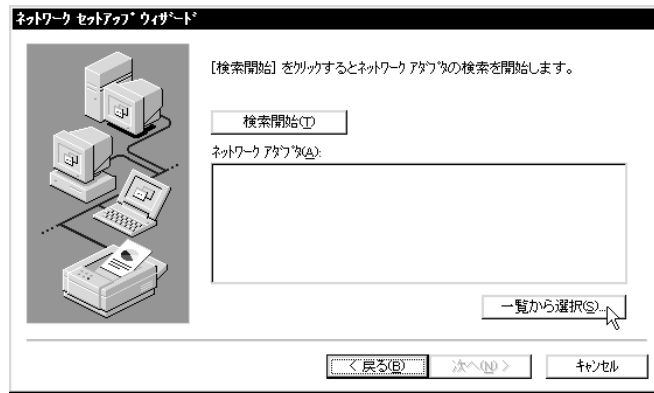


図 2.3.4

- (5) 「ディスク使用 (H)」ボタンをクリックしてください<sup>†1</sup>。

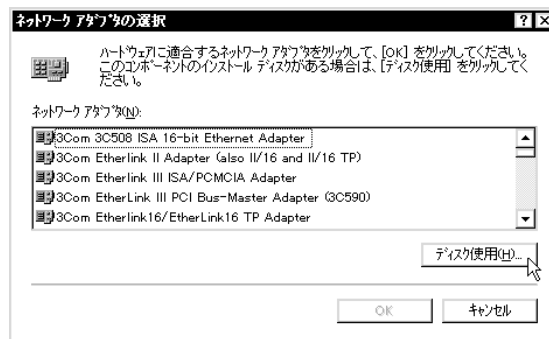


図 2.3.5

- (6) ディレクトリとして「A:¥windows.nt」を入力し、「OK」をクリックしてください。ここでは、フロッピードライブを A:と仮定します。

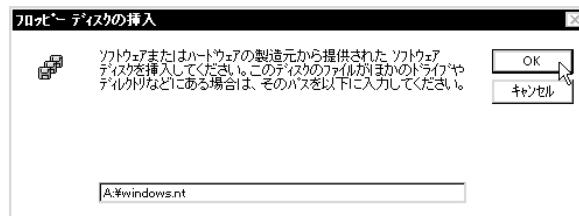


図 2.3.6

† 1 Windows NT の供給 CD-ROM に含まれている LA-ISA のドライバーを選択しないでください。必ず、「ディスク使用」をクリックし本製品に付属のドライバー（LA-ISA V2 用）をご使用ください。

- (7) 「Allied Telesis LA-ISA/LA-ISA V2 アダプタ」を選択し、「OK」をクリックしてください。

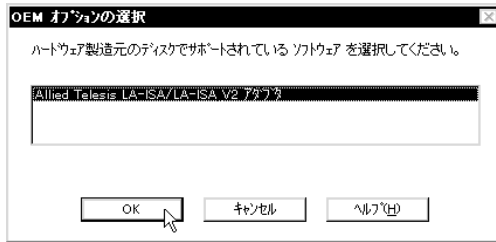


図 2.3.7

- (8) 「ネットワークアダプタ (A):」の「Allied Telesis LA-ISA/LA-ISA\_V2アダプタ」にチェックが付いていることを確認し、「次へ (N):」をクリックしてください。



図 2.3.8

- (9) 使用するネットワークプロトコルにチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなプロトコルが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。ここでは、「TCP/IPプロトコル」のみをチェックすると仮定します。

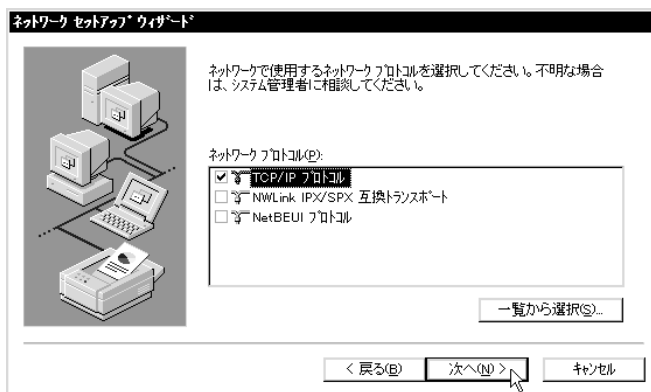


図 2.3.9

- (10) 使用するサービスにチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなサービスが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。

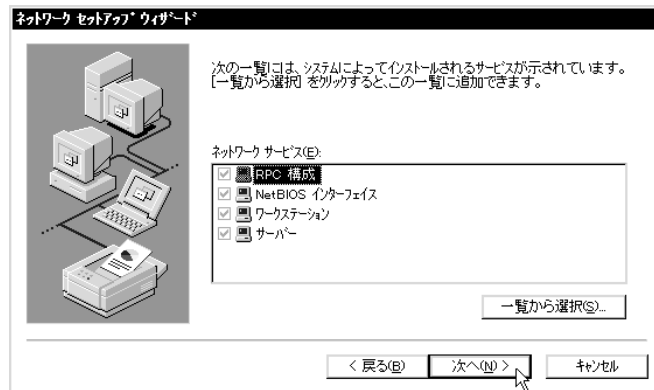


図 2.3.10

- (11) メッセージを確認して、「次へ (N):」をクリックしてください。

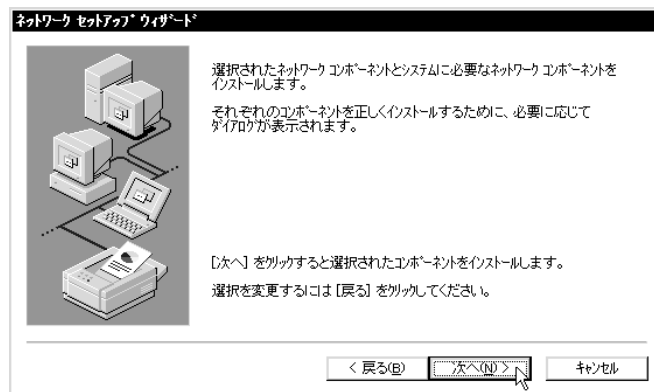


図 2.3.11

- (12) Windows NTのインストール元のディレクトリ「D:¥386」を指定してください。ここでは、CD-ROM ドライブを D:と仮定します。

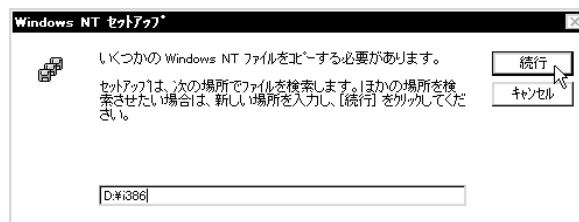


図 2.3.12

- (13) 「Allied Telesis K.K. LA-ISA/LA-ISA V2アダプタカードセットアップ」ダイアログが現れます。

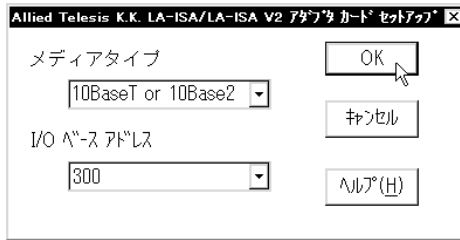


図 2.3.13

### メディアタイプ

ご使用のメディアを選択してください。LA-ISA-T V2をご使用の場合は、必ず「10BaseT or 10Base2」を選択してください。

### I/O ベースアドレス<sup>†1</sup>

第5部「2.2 アダプターの設定」で設定した値を選択します。ここでは、「300」を選択すると仮定します。

- (14) 「種類(T)」で「ISA」を選択し、「OK」をクリックしてください(「番号」はそのままお使いください)。

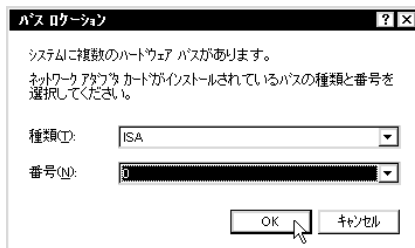


図 2.3.14

- (15) コピーが始まります。
- (16) (9)で「TCP/IP」を選択したので、「DHCPを使用するか？」を質問されます。ここでは、デフォルトである「いいえ (N)」をクリックすると仮定します。



図 2.3.15

† 1 WindowsNT から IRQ を変更することはできません。IRQ を変更する場合は、CFGISA をご使用ください。詳細は、第3部「アダプターの設定・CFGISA.EXE」をご覧ください。

- (17) 「DHCP を使用しない」としたので、「TCP/IP のプロパティ」として IP アドレスなどの値を設定しなければなりません。次に入力例を示します。これらの値は、お客様の環境における値を入力してください。

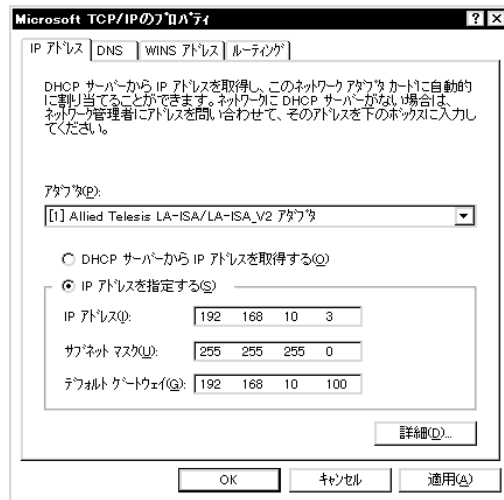


図 2.3.16

- (18) DNS (Domain Name System) の設定をします。「DNS」のタブをクリックしてください。次に入力例を示します。ここでは、ホスト名として「keith」を仮定しています。

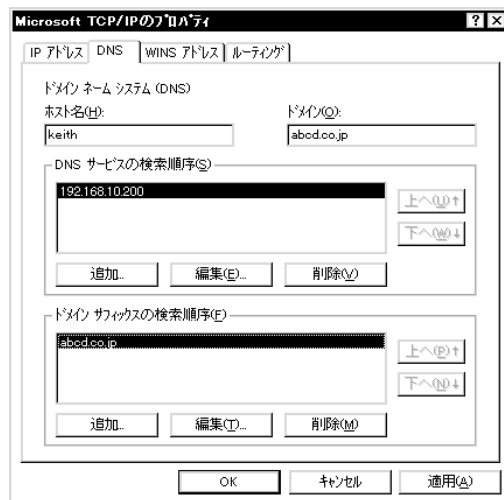


図 2.3.17

- (19) 続いて、「WINS (Windows Internet Name Service) アドレス」の設定を行います。ここでは、「Windows 名前解決に DNS を使う (N)」を仮定しました<sup>1)</sup>。必要であれば、さらに「ルーティング」の設定を行い、最後に「OK」をクリックしてください。これらの設定の詳細についてはシステム管理者にご確認ください。

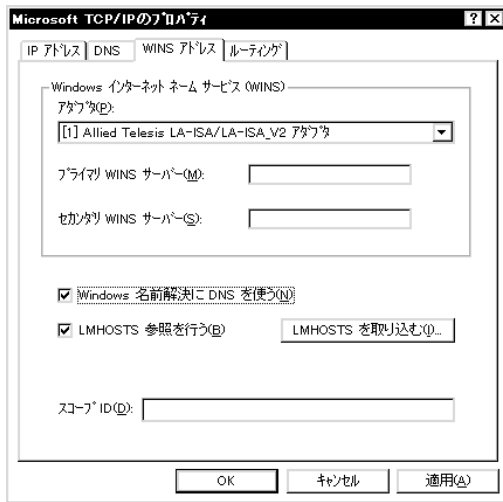


図 2.3.18

(18) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 2.3.19

(19) 「次へ (N)」をクリックしてください。



図 2.3.20

† 1 この図は Windows NT Workstation の場合の例です。Windows NT Server をご使用の場合はさらに「DHCP リレー」タブがあります。詳細はシステム管理者にご確認ください。



- (20) 「次へ (N)」をクリックしてください。ここでは、「コンピュータ名」として「KEITH」、「ワークグループ」として「WORKGROUP」をそのまま使用すると仮定します。

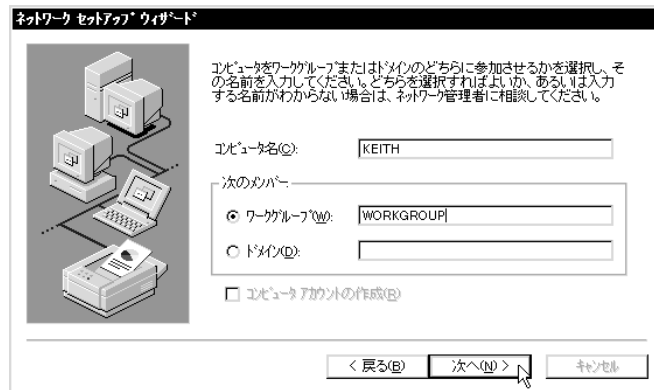


図 2.3.21

- (21) 「完了」をクリックしてください。



図 2.3.22

- (22) 「はい (Y)」をクリックし、パソコンを再起動してください。

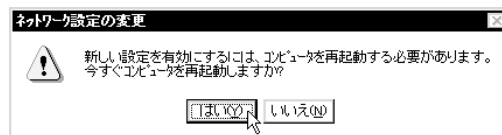


図 2.3.23

## 3 インストール後

### 3.1 リソース値の確認

「スタート」 「プログラム」 「管理ツール( 共通 )」 「Windows NT 診断プログラム」をクリックしてください。「Windows NT 診断プログラム」ダイアログで「リソース」タブをクリックし、「LAISA」を選択してから、「プロパティ」をクリックしてください。本製品に割り当てられたリソースが表示されます。

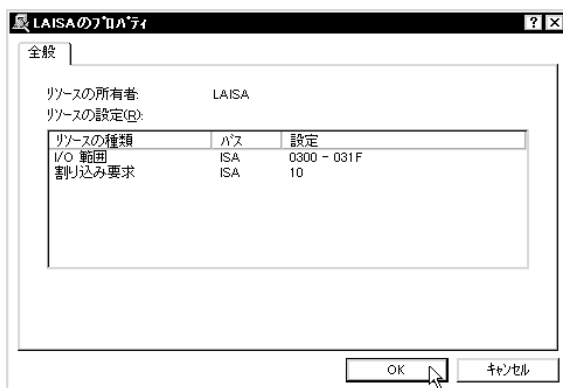


図 3.1.1 リソースの表示

### 3.2 本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品やネットワークを使用しないときは<sup>†1</sup>、ドライバーをアンロードしてください(バインドしない)。ドライバーがロードされたまま前述の作業を行った場合、Windows NTはこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。

- (1) 「コントロールパネル」 「ネットワーク」 「バインド」タブと進みます。「バインドの表示」で「すべてのアダプタ」を選択してください。
- (2) 本製品のアイコンを選択し、「無効」ボタンをクリックしてください。本製品やプロトコルなどが無効を示すアイコンに変わります。使用を再開する場合は、本製品のアイコンを選択し、「有効」ボタンをクリックしてください。

<sup>†1</sup> ネットワークケーブルを外している、ハブの電源をオフにしている場合など。

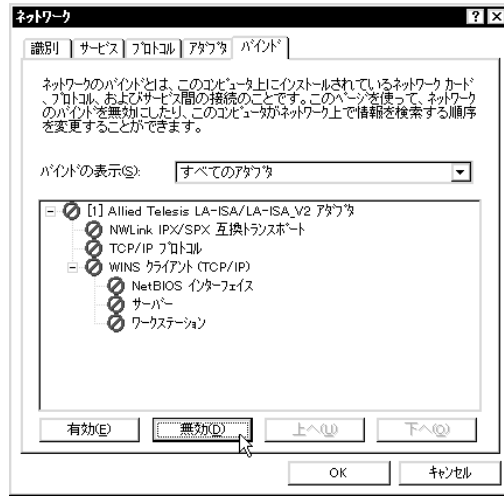


図 3.2.1 ドライバーのアンロード

## 4 ドライバーの削除と再インストール

本製品の登録内容を削除し、再びインストールする手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません（一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されません）。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

### 4.1 ドライバーの削除

- (1) 「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブをクリックしてください。
- (2) 「ネットワークアダプタ (N):」で「Allied Telesis LA-ISA/LA-ISA\_V2アダプタ」を選択し、「削除 (R)」ボタンをクリックしてください。



図 4.1.1

- (3) 「はい」をクリックし、(フロッピーディスクが入っている場合は取り出して)コンピュータを再起動します。

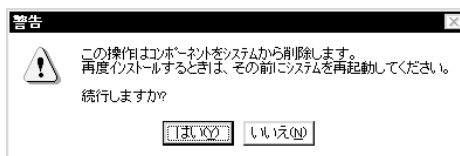


図 4.1.2

## 4.2 再インストール

「4.1 ドライバーの削除」終了後(すなわちネットワーク環境を一度でもインストールしたことがある場合)、再びドライバーのインストールを行う場合は「ネットワーク」アイコン(コントロールパネル)をダブルクリックし、「アダプタ」タブで「追加..」をクリックしてください。「2.3 NDISドライバーのインストール」の手順(5)から再開することになります(既にインストール済みの項目に関するダイアログは表示されないことがあります)。



# 1 準備

インストールを始める前に、以下のものをご用意ください。

1. LA-ISA-T V2 **または** LA-ISA-25T V2 **アダプター**
2. LA-ISA V2 **ドライバディスク(本製品に付属)**
3. **パソコン**(Windows NT Version 3.5/3.51 ServerまたはWorkstationがインストール済みのものをご用意ください)



本製品のインストールは、Windows NTのインストールを完了しているパソコンに対して行ってください。Windows NTはPlug & Playをサポートしていないため、Windows NTと本製品のインストールを同時に行い、Windows NTのインストール中に本製品が使用するハードウェアリソースが他のデバイスと重複してしまうと、重複の回避に手間取ることがあります。

4. Windows NT Version 3.5/3.51( Server **または** Workstation )**の供給 CD-ROM**
5. Windows95 **または** MS-DOS **の起動ディスク**



アダプター設定プログラム「CFGISA.EXE」を実行するためにMS-DOS(またはWindows95)が必要です。ご使用のパソコンがWindows NT 3.5/3.51以外にもMS-DOSが実行できるように設定されていない場合は、「Windows95の起動ディスク」または「MS-DOSの起動ディスク」をご用意ください。

「Windows95の起動ディスク」は、Windows95を実行している他のパソコンで、「マイコンピュータ」「コントロールパネル」「アプリケーションの追加と削除」「起動ディスク」タブ「ディスクの作成」ボタンをクリックすることによって作成することができます。

また、本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。各操作、設定の詳細については Windows NT のマニュアルやヘルプをご覧ください。



Windows NT のハードウェア互換性リスト( Windows NT パッケージに同梱されています )に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。



本マニュアルに記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。



本マニュアルでは、Windows NT Version 3.51 Workstation を用いて説明します。



## 2 ドライバーのインストール

以下の手順にしたがって、ドライバーのインストールを行ってください。

### 2.1 リソースの確認

本製品が使用可能なハードウェアリソースの値を確認します。

- (1) Windows NTが起動されていない場合は起動し、「プログラムマネージャ」「管理ツール」と進み、「Windows NT 診断プログラム」アイコンをダブルクリックしてください。

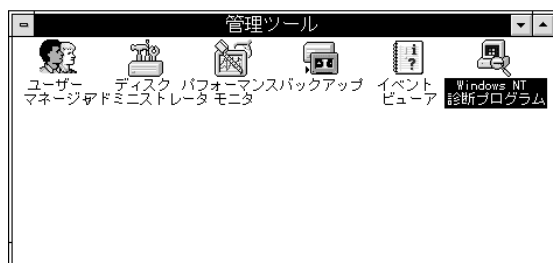


図 2.1.1

- (2) 「IRQ/ ポートの状態」をクリックしてください。

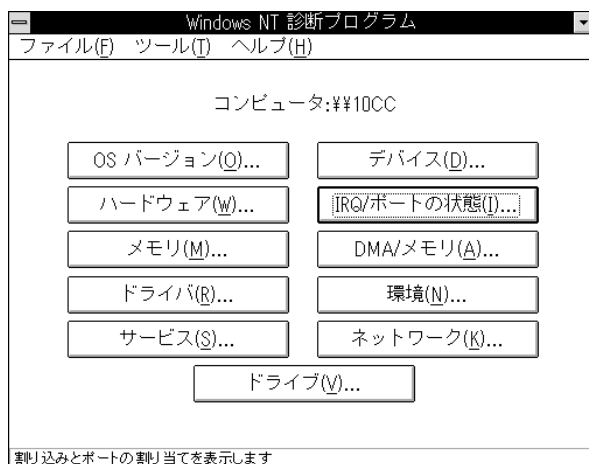


図 2.1.2 IRQ/ ポートの状態

- (3) 「割り込み / ポート」画面が表示されます。



図 2.1.3 リソースの表示 (IRQ、I/O Base Address)

### 割り込み (インタラプト、IRQ)

上記の例では、「2/9」、「5」、「10」、「11」が本製品で使用可能な空きです。設定可能な範囲は「ユーザズマニュアル」付録 A「4 IRQ」をご覧ください。

### ポート (I/O ベースアドレス)

下記の例では、「240-25F」、「280-29F」、「300-31F」などが本製品で使用可能な空きです。設定可能な値の範囲は「ユーザズマニュアル」付録 A「3 I/O アドレス」をご覧ください。

- (4) Windows NT 診断プログラムを終了します。

## 2.2 アダプターの設定

WindowsNT 3.5/3.51 は、Plug & Play に対応していないため、アダプター設定プログラム「CFGISA.EXE」を使って本製品を Legacy モードに設定します。CFGISA は、「MS-DOS」または「Windows95 のコマンドプロンプトのみ (Command Prompt Only)」のモードで実行することができます<sup>†1</sup>。

- (1) パソコンの電源をオフにした状態で、本製品をパソコンの拡張スロットに取り付けてください。詳細は、第 2 部「設置・配線」をご覧ください。

†1 Windows95 または MS-DOS が実行できる他のパソコンで「2.2 アダプター設定」を行っており、実際に使用するパソコンに本製品を取り付け直してから、「2.3 NDIS ドライバーのインストール」を実行することもできます。

- (2) パソコンがMS-DOSで起動できるように設定されている場合は、MS-DOSを起動してください。そのように設定されていない場合は、あらかじめ用意しておいた「Windows95の起動ディスク」をフロッピードライブに入れ、パソコンを起動してください。
- (3) MS-DOSまたはWindows95のコマンドプロンプトのみが起動したら、本製品のドライバーディスクをフロッピードライブに入れ(または入れ替え)、次のコマンドを入力してください。ここでは、フロッピードライブをA:と仮定します。

```
C:¥>A:  
A:¥>CFGISA
```

- (4) アダプターの設定を行ってください。ここでは、以下のように設定すると仮定します。手順の詳細は、第3部「2 アダプターの設定・CFGISA.EXE」をご覧ください。

#### Legacy

WindowsNT 3.5/3.51では、Legacyモードに設定しなければなりません。

#### I/O Base Address(I/O ポート)

「2.1 リソースの確認」で調べた値の中から「300-31F」に設定すると仮定します。「300-31F」はLegacyモードにおけるデフォルトです。

#### インタラプトレベル(IRQ)

「2.1 リソースの確認」で調べた値の中から「11」に設定すると仮定します。

#### ネットワークメディア

希望のメディアを選択してください。この値は、WindowsNTで変更することができます。

#### 回線方式

「Half Duplex」(半二重)を選択すると仮定します。「Half Duplex」はデフォルトです。

- (5) パソコンの電源を入れなおすか、パソコンのリセットスイッチを押し、WindowsNT 3.5/3.51を起動してください<sup>†1</sup>。

---

†1 CTRL+ALT+DEL キーで再起動しないでください。CTRL+ALT+DELによる再起動では、本製品が完全にリセットされず、第3部「2 アダプターの設定・CFGISA.EXE」で施した内容が有効にならないことがあります。

## 2.3 NDIS ドライバーのインストール

ここでは、「アダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合における本製品用ドライバーのインストール手順について説明します。また、ここでは、Windows NT Setupが要求する問いに対して、基本的にデフォルトで答えると仮定します。

1. 「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。



図 2.3.1 ネットワーク(コントロールパネル)

2. 「直ちにネットワークを組み込みますか？」の問いに対して<sup>†1</sup>、「はい」をクリックしてください。



図 2.3.2

†1 プロトコルなどのネットワーク環境が既にインストールされている場合は「ネットワークの設定」ダイアログが表示されます。この場合は「アダプタカードの追加..」をクリックしてください。図 2.3.6 が表示され、本製品のみのインストールが始まります。

- 「Windows NT セットアップ」が起動します。Windows NT のマスターディスク(ここではCD-ROMを使用するとします)をドライブに挿入し、Windows NT の配布ファイルへのフルパス「¥1386」を入力します。ここでは、CD-ROMドライブをG:と仮定します。

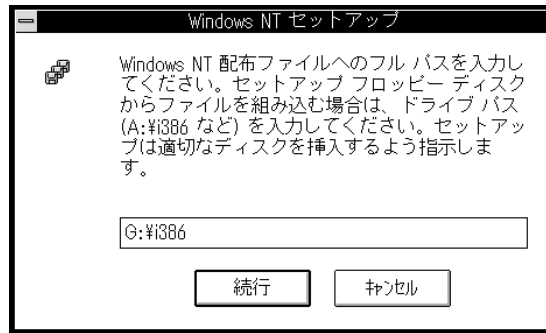


図 2.3.3

- 「検出しない」をクリックしてください。

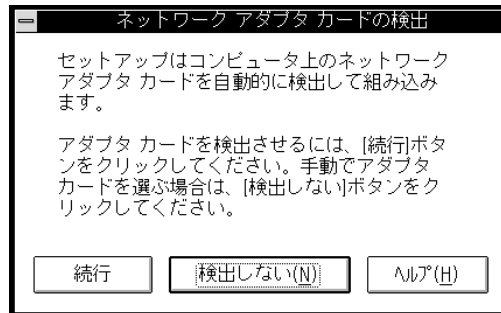


図 2.3.4 ネットワークアダプタカードの検出

- 「続行」をクリックしてください。

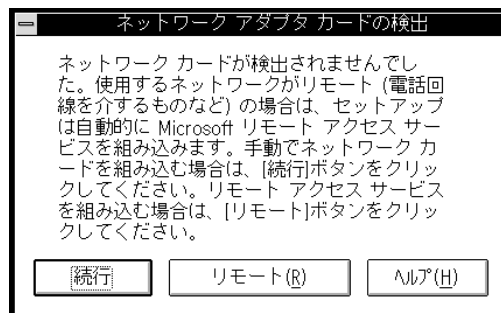
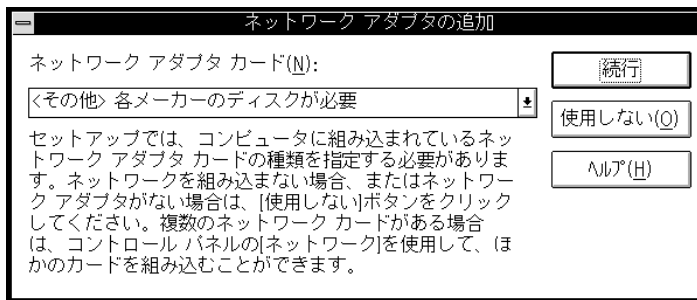


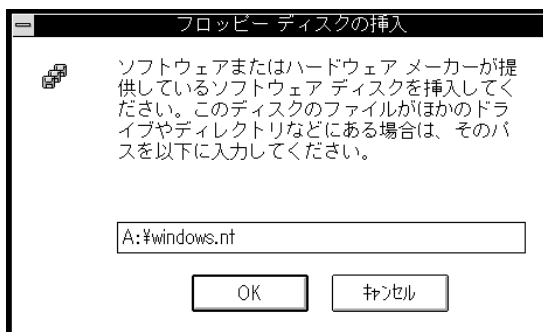
図 2.3.5 ネットワークアダプタカードの検出

6. 「ネットワークアダプタの追加」ダイアログが表示されます。「ネットワークアダプタカード(N):」リストボックスで「<その他>各メーカーのディスクが必要」(最後から2行目)を選択し、「続行」をクリックします。



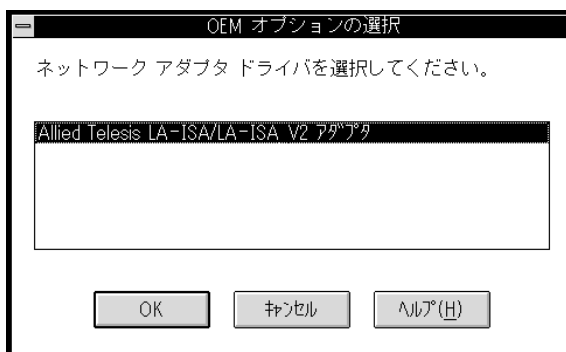
☒ 2.3.6

7. LA-ISA V2 ドライバディスクをフロッピードライブに挿入し、「A:¥windows.nt」を入力してください。ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。



☒ 2.3.7

8. 「Allied Telesis LA-ISA/LA-ISA V2 アダプタ」がアクティブになっていることを確認して、「OK」をクリックして下さい。



☒ 2.3.8

9. ご使用のネットワークメディア(ネットワークケーブル)の種類を選択し、「OK」をクリックしてください。

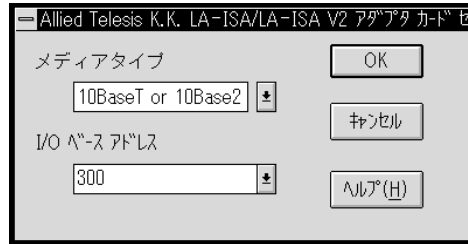


図 2.3.9

#### メディアタイプ<sup>†1</sup>

ご使用のメディアを選択してください。LA-ISA-T V2をご使用の場合は、必ず「10BaseT or 10Base2」を選択してください。

#### I/O ベースアドレス<sup>†2</sup>

第5部「2.2 アダプターの設定」で設定した値を選択します。ここでは、「300」を選択すると仮定します。

10. 「バスの種類(T)」で「ISA」を選択し、「OK」をクリックしてください。

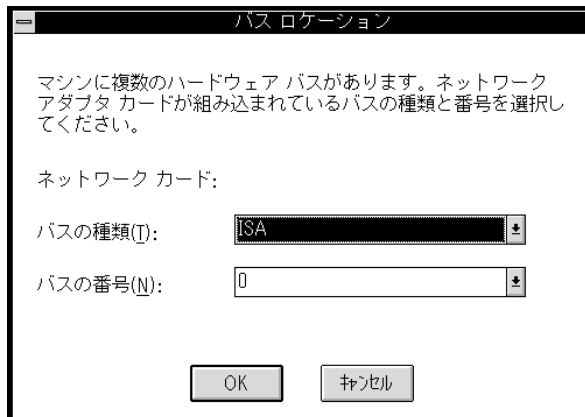


図 2.3.10

11. ネットワークで使用されているプロトコルをチェックして「続行」をクリックします。お客様のネットワークでどのようなプロトコルが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。ここでは、「TCP/IP トランスポート(T)」のみをチェックすると仮定します。

†1 10BASE-Tの全2重/半2重は、「CFGISA」で変更できます。

†2 IRQは、「CFGISA」で変更できます。

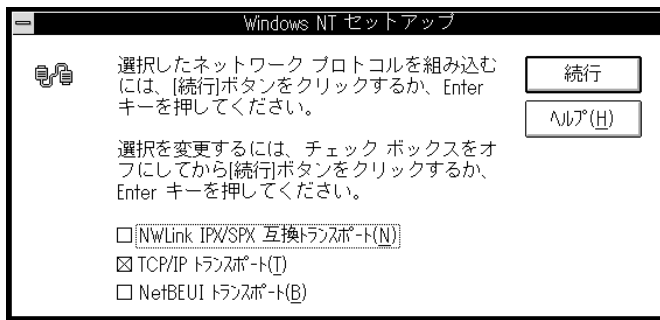


図 2.3.11

- 手順 10 で TCP/IP を選択した場合は TCP/IP オプションに関する設定画面が表示されます。お客様の環境に合わせて適宜設定し、「続行」をクリックして下さい。

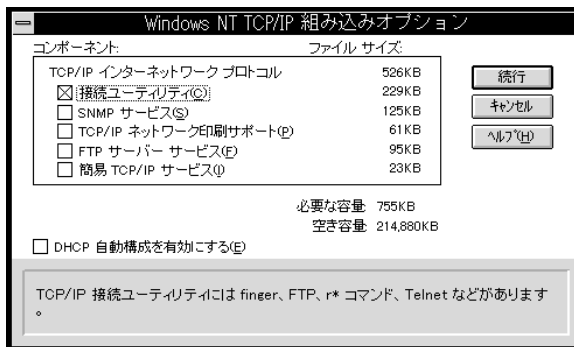


図 2.3.12

- ファイルのコピーが行われます。コピーが終了すると、下のダイアログが表示されます。「バインド(B)」をクリックしてください。

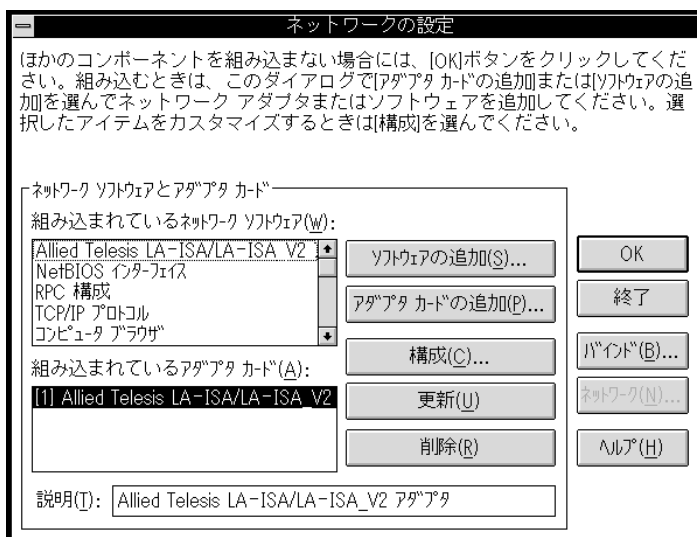


図 2.3.13



14. 「OK」をクリックしてください。



図 2.3.14

15. 「OK」をクリックします。

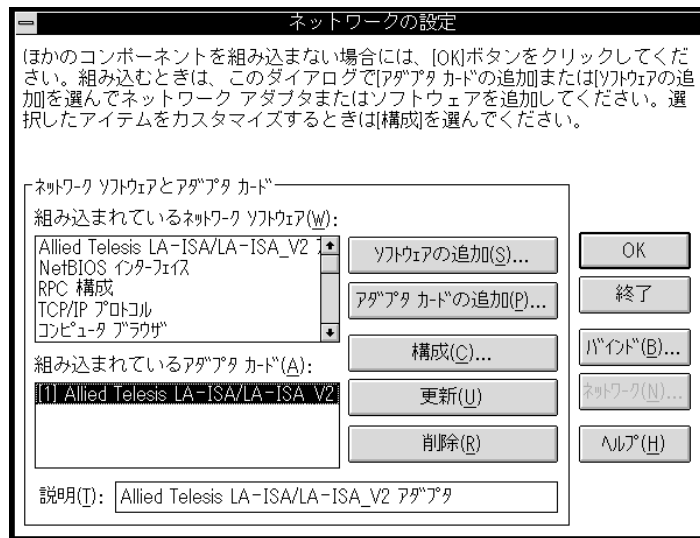
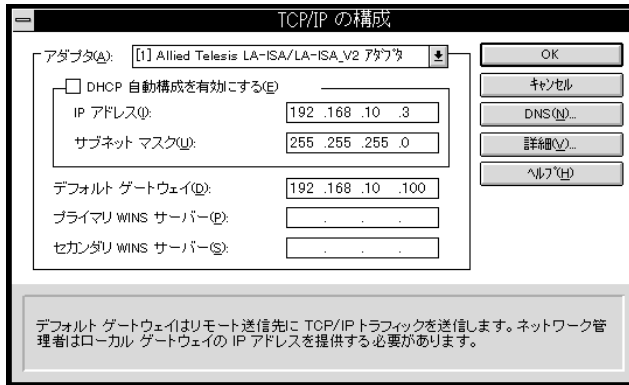
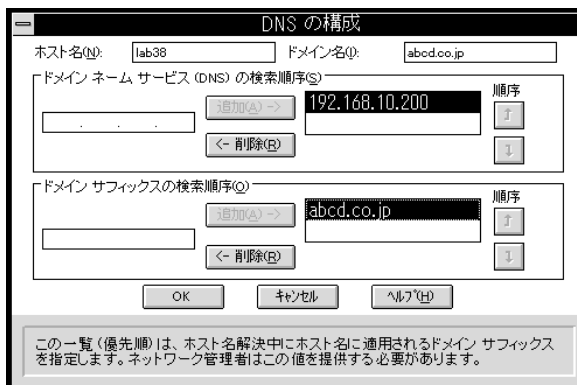


図 2.3.15

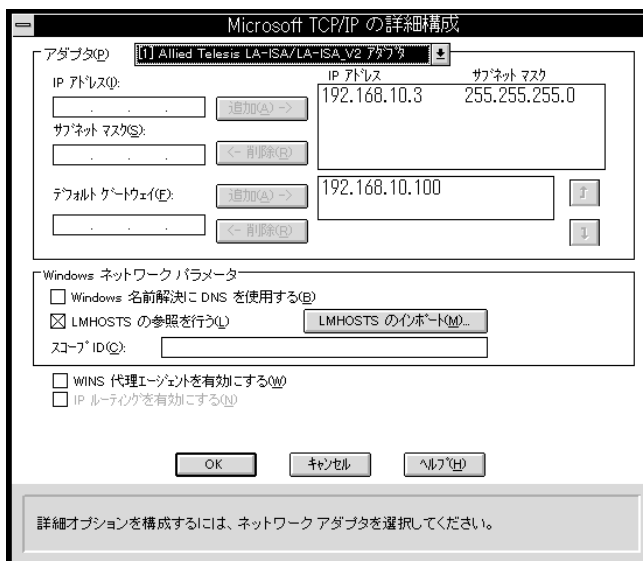
16. TCP/IPに関する設定画面が表示されます。各項目をご使用の環境に合わせて設定し、「OK」をクリックしてください。詳細はシステム管理者にご確認ください。



☒ 2.3.16



☒ 2.3.17 DNS の構成 (画面 4.17 で「DNS」をクリック)



☒ 2.3.18 TCP/IP の詳細設定 (画面 4.17 で「詳細」をクリック)

17. 「ドメイン/ワークグループの設定」が表示されます。ここでは、「ワークグループ」に参加すると仮定します。詳細はシステム管理者にご確認ください。

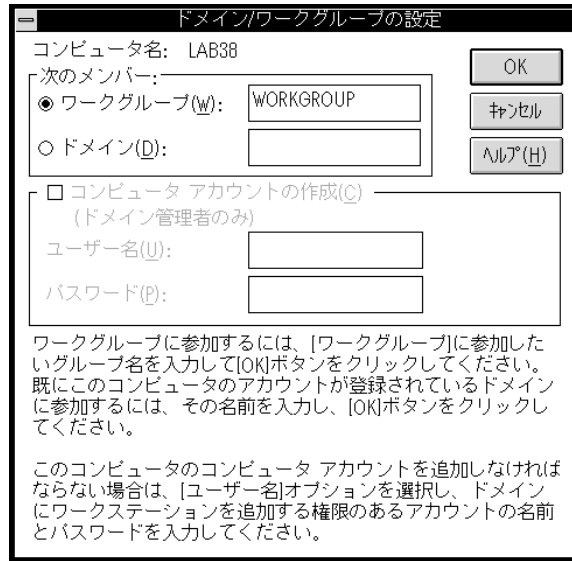


図 2.3.19 ドメイン/ワークグループの設定

18. 下の画面が表示されたらフロッピーディスクをディスクドライブから取りだし、「コンピュータの再起動」アイコンをクリックして、再起動します。

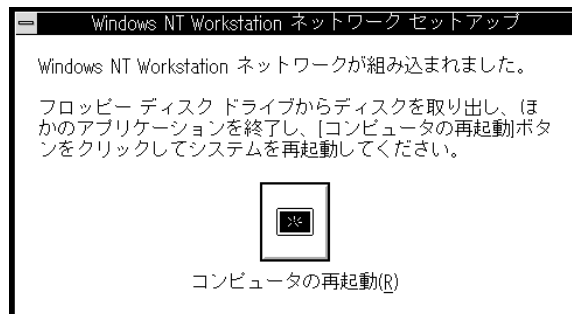


図 2.3.20

## 3 インストール後

### 3.1 リソースの確認

「プログラムマネージャー」「管理ツール」「Windows NT 診断プログラム」アイコン「IRQ/ポートの状態(I)」ボタンをクリックしてください。本製品のリソースが確認できます。

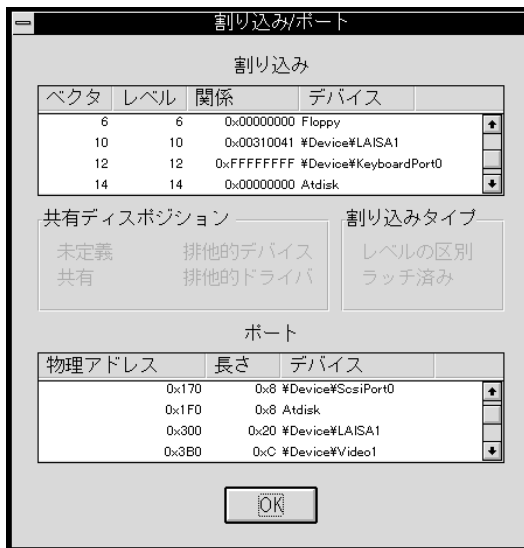


図 3.1.1

## 3.2 本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品やネットワークを使用しないときは<sup>†1</sup>、ドライバーをアンロードしてください(バインドしない)。ドライバーがロードされたまま前述の作業を行った場合、Windows NTはこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。

- (1) 「コントロールパネル」 「ネットワーク」 「ネットワークの設定」 「バインド(B)..」と進みます。
- (2) 本製品に関する項目全てについて、左端の電球のマークを選択して「無効」をクリックし、電球が消えている状態にしてください。



3.2.1

<sup>†1</sup> ネットワークケーブルを外している、ハブの電源をオフにしている場合など。

## 4 ドライバーの削除と再インストール

本製品のドライバーおよび登録内容を削除し、再びインストールする手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません (一部の設定値、例えば TCP/IP における IP アドレスなどは削除されます)。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

### 4.1 ドライバーの削除

1. 「プログラマナー」 「コントロールパネル」 「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワークの設定」ダイアログを表示します。「組み込まれているアダプタカード」リストから「Allied Telesis LA-ISA/LA-ISA V2 アダプタ」を選択し、「削除」をクリックします。



図 4.1.1

2. 「はい」をクリックします。

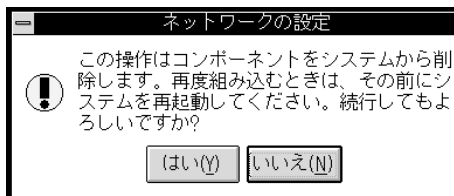


図 4.1.2

3. 「組み込まれているアダプタカード」から「Allied Telesis LA-ISA/LA-ISA V2 アダプタ」が消えていることを確認して「OK」をクリックします。



図 4.1.3

4. 「再起動する」をクリックして、(フロッピーディスクが入っている場合は取り出して)コンピュータを再起動します。

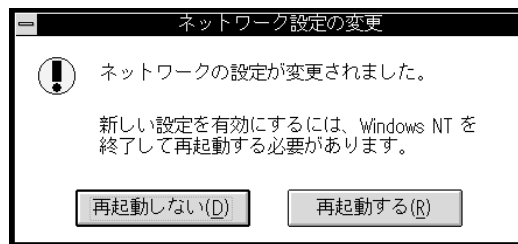


図 4.1.4

## 4.2 再インストール

ドライバーの削除を行った後、再びドライバーのインストールを行う場合はネットワーク(コントロールパネル)を起動し、「アダプタカードの追加..」をクリックしてください。

# 第7部

## NetWare Server

第7部では、本製品のドライバーをNetWare、IntranetWareにインストールする手順を説明します。



# 1 NetWare 4.1xJ サーバー

NetWare 4.11J/4.1Jサーバーのインストール手順の概要を説明します。インストールの前に下記のことが実行されていなければなりません。

- [1] CFGISA.EXEによって、本アダプターが「Legacy」モードに設定されており、I/Oアドレス、インタラプトも設定されていること(あらかじめETHDIAGを使用し、本アダプターが正常に動作することを確認しておいてください。第3部「アダプターの設定」をご覧ください)。

また、ここでは下記の2点を仮定します。

- [2] NetWareサーバーをインストールするパソコンは、ハードディスク容量の一部がMS-DOSのパーティションとして割り当てられており、そのパーティションからMS-DOSの起動ができるよう準備してあります。
- [3] 既にNetWareサーバーのインストールは終了しており、本アダプターのドライバーをインストールすれば全て完了の状態となっています。

以下に手順を説明します。詳細に関しては、NetWareパッケージのマニュアルをご覧ください。

- (1) 「SERVER.EXE」を起動します。SERVER.EXEは、C:¥NWSERVERに存在すると仮定します。

```
C:¥>CD NWSERVER
C:¥NWSERVER>SERVER
```

SERVERが起動すると、下記のようなプロンプト(「NetWareのインストールのとき指定したサーバー名」+「:」)が表示されます。ここでは、サーバー名として「LILITH」を仮定します。

```
LILITH:
```

- (2) 下記のコマンドを入力してください。

```
LILITH:LOAD INSTALL
```

- (3) 次のようにメニューの項目を選択していき、「ドライバーの選択」画面を表示させてください。

画面「インストールオプション」 項目「ドライバーオプション」  
画面「ドライバーオプション」 項目「ネットワークドライバーの設定」  
画面「追加ドライバーに対する操作」 項目「追加ドライバーの選択」  
画面「ドライバーの選択」

- (4) 画面「ドライバーの選択」が現れたら、「Ins」キー(リストにないドライバーのインストール)を押し、表示されるメッセージを確認してください。
- (5) フロッピードライブにドライバーディスクを入れてF3キーを押し、「ディレクトリパスの指定」で下記のディレクトリを入力してください。ここでは、フロッピードライブをA:と仮定します。

#### NetWare 4.11J(IntranetWare)の場合

A:¥NETWARE.386¥411

#### NetWare 4.1Jの場合

A:¥NETWARE.386¥410

- (6) 画面「インストールするドライバーの選択」が現れます。項目「LAISA.LAN」を選択し、リターンキーを押してください。
- (7) 表示されるメッセージにしたいが、LAISA.LAN、LAISA.LDIをコピーしてください。
- (8) プロトコル、パラメータを設定する画面が現れます。各項目に適切な設定を入力し、「パラメータを保存し、ドライバーをロード」を選択してください。各項目について、以下に説明します。

#### TCP/IP、AppleTalk

必要であれば選択し、設定を施してください。

#### ポートアドレス

CFGISAによって設定したI/Oアドレスを入力してください。この項目の上にカーソルを移動させ、リターンキーを押すと、選択可能な値のメニューが表示されます。

- (9) 「バインドするネットワーク番号」の入力を求める画面に対して、お客様の環境における適切な数値を入力してください。
- (10) 「追加のネットワークドライバーを選択しますか？」に対して「No」を選択してください。以上で、本アダプターのドライバーインストールは終了です。

- (11) 次のようにメニューの項目を選択していき、「インストールオプション」画面に戻ってください。

画面「追加ドライバーに対する操作」 項目「前のメニューに戻る」  
 画面「ドライバーオプション」 項目「前のメニューに戻る」  
 画面「インストールオプション」

## AUTOEXEC.NCF の例<sup>†1</sup>

AUTOEXEC.NCFファイルの例を示します。ただし、この例では2枚の本アダプターを実装しており、複数のプロトコルをサポートしています。

```

.....
LOAD LAISA PORT=300 FRAME=ethernet_802.3 NAME=LAISA_1_E83
BIND IPX LAISA_1_E83 NET=1024D50
LOAD LAISA PORT=300 FRAME=ethernet_802.2 NAME=LAISA_1_E82
BIND IPX LAISA_1_E82 NET=9E705CB8
LOAD LAISA PORT=300 FRAME=ethernet_II NAME=LAISA_1_EII
BIND IPX LAISA_1_EII NET=6DD0B468
LOAD LAISA PORT=300 FRAME=ethernet_snap NAME=LAISA_1_ESP
BIND IPX LAISA_1_ESP NET=1C1F1B36

LOAD LAISA PORT=240 FRAME=ethernet_802.3 NAME=LAISA_2_E83
BIND IPX LAISA_2_E83 NET=214965CA
LOAD LAISA PORT=240 FRAME=ethernet_802.2 NAME=LAISA_2_E82
BIND IPX LAISA_2_E82 NET=21796DDA
LOAD LAISA PORT=240 FRAME=ethernet_II NAME=LAISA_2_EII
BIND IPX LAISA_2_EII NET=CFBC5ECF
LOAD LAISA PORT=240 FRAME=ethernet_snap NAME=LAISA_2_ESP
BIND IPX LAISA_2_ESP NET=7387F29
.....

```

†1 LAISA.LANは、コマンドの引数としてIRQ、全2重/半2重を取ることはできません。これらの設定は、あらかじめCFGISAで行っておいてください。

## 2 NetWare 3.12J サーバー

NetWare 3.12Jサーバーのインストール手順の概要を説明します。インストールの前に下記のことが実行されていなければなりません。

- [1] CFGISA.EXEによって、本アダプターの動作モードが「Legacy」に設定されており、I/O アドレス、インタラプトも設定されていること( ETHDIAG を使用し、本アダプターが正常に動作することを確認しておいてください)。

また、ここでは下記の2点を仮定します。

- [2] NetWareサーバーをインストールするパソコンは、ハードディスク容量の一部がMS-DOSのパーティションとして割り当てられており、そのパーティションからMS-DOSの起動ができるよう準備してあります。
- [3] 既にNetWareサーバーのインストールは終了しており、本アダプターのドライバーをインストールすれば全て完了の状態となっています。

以下に手順を説明します。詳細に関しては、NetWareパッケージのマニュアルをご覧ください。

- (1) NetWareサーバーの起動コマンド「SERVER.EXE」が存在するディレクトリに、LA-ISAのドライバーをコピーします。ここでは、SERVER.EXEはC:¥SERVER.312に存在し、フロッピードライブはC:と仮定します。

```
C:¥>COPY A:¥NETWARE.386¥312¥LAISA.LAN C:¥SERVER.312
```

- (2) 「SERVER.EXE」を起動します。

```
C:¥>CD SERVER.312
C:¥SERVER.312>SERVER
```

SERVERが起動すると、下記のようなプロンプト(「NetWareのインストールのとき指定したサーバー名」+「:」)が表示されます。ここでは、サーバー名として「LILITH」を仮定します。

```
LILITH:
```

- (3) ドライバーをロードします。「PORT=」の数値は、CFGISAで設定したI/Oアドレスの先頭値です。

```
LILITH:LOAD C:\SERVER.312\LAISA PORT=300 FRAME=ethernet_802.2
NAME=LAISA_1_E82
```

- (4) ドライバーに対して、IPXプロトコルのバインドを行います。「NET=」に続く数値は、お客様の環境に合った数値を入力してください。

```
LILITH:BIND IPX LAISA_1_E82 NET=1024D50
```

- (5) 手順(3)(4)で入力したコマンド行は、下記のコマンドを入力し、

```
LILITH:LOAD INSTALL
```

下記の順にメニューを選択して、AUTOEXEC.NCFファイルを保存すれば、次のサーバー起動のとき、自動的に実行されます。

画面「インストレーションオプション」 項目「システムオプション」 画面「利用可能なシステムオプション」 項目「AUTOEXEC.NCFファイルの作成」

## AUTOEXEC.NCF の例<sup>†1</sup>

AUTOEXEC.NCFファイルの例を示します。ただし、この例では2枚の本アダプターを実装しており、複数のプロトコルをサポートしています。

```
LOAD C:\SERVER.312\LAISA PORT=300 FRAME=ethernet_802.3
NAME=LAISA_1_E83
BIND IPX LAISA_1_E83 NET=1024D50
LOAD C:\SERVER.312\LAISA PORT=300 FRAME=ethernet_802.2
NAME=LAISA_1_E82
BIND IPX LAISA_1_E82 NET=9E705CB8

LOAD C:\SERVER.312\LAISA PORT=240 FRAME=ethernet_802.3
NAME=LAISA_2_E83
BIND IPX LAISA_2_E83 NET=214965CA
LOAD C:\SERVER.312\LAISA PORT=240 FRAME=ethernet_802.2
NAME=LAISA_2_E82
BIND IPX LAISA_2_E82 NET=21796DDA
```

†1 LAISA.LAN は、コマンドの引数として IRQ、全2重/半2重を取ることはできません。これらの設定は、あらかじめ CFGISA で行っておいてください。紙面の都合上、LOAD コマンドが2行にまたがっています。実際には、「LOAD ..... NAME=.....」は連続行です。



# 1 NetWare 4.1xJ/3.12J クライアント

NetWare 4.11J/4.1J/3.12Jクライアントのインストール手順の概要を示します。インストール手順の詳細は、各 NetWare のマニュアルをご覧ください。

## 準備

DOS ODI ドライバーのインストールを実行する前に、ご使用になるパソコンや本製品に対して、あらかじめ以下のことを施しておいてください。

- [1] Plug & Play **対応パソコン**の場合、パソコンが Plug & Play をサポートするように設定されていること。詳細は、第3部「3 MS-DOS・Windows 3.1における Plug & Play」をご覧ください。
- [2] Plug & Play **に対応していないパソコン**の場合、「CFGISA.EXE」によってモード、I/O アドレス、インタラプトが設定されていること。詳細は、第3部「2 アダプターの設定・CFGISA.EXE」をご覧ください。

## インストール

- (1) NetWare 4.11J/4.1J の場合は、「NetWare Client for DOS and MS Windows Disk-1」<sup>†1</sup>をフロッピードライブに入れ、下記のコマンドを実行してください<sup>†1</sup>。

```
A:¥>INSTALL
```

NetWare 3.12J の場合は、「WSDOS\_1」ディスクをフロッピードライブに入れ、下記のコマンドを実行してください。

```
A:¥>WSINST
```

- (2) NetWare 4.11J の場合、まず次の3つの質問が行われます。お客様の環境に合わせて適切なものを選んでください。

† 1 NetWare 4.11J の場合、あらかじめ供給 CD-ROM からインストール用のフロッピーディスクのセットを作成しておかなければなりません。CD-ROM から直接インストールする方法もありますが、ここではフロッピーディスクからインストールすると仮定します。

† 2 NetWare 4.1J の場合、「INSTALL」を実行する前に「SET NWLANGUAGE=NIHONGO」を実行してください。この環境変数がセットされていない場合、メッセージが英語となります。詳細は、NetWare 4.1J のマニュアルをご覧ください。

- ・AUTOEXEC.BAT、CONFIG.SYS の修正について
  - ・インストールするクライアントの選択
  - ・時間に関する環境変数の設定
- (3) 続いて、6つの項目が表示されます。まず、1.、2.、3.、4.の質問に対して画面の指示にしたがって答えてください。
- (4) NetWare 4.11Jの場合、5.で「ネットワークボード」を選択します。「リストを表示するには、ここを選択して<ENTER>を押してください」を選択して、リターンキーを押してください。手順(5)に進みます。

NetWare 4.1Jの場合、「5. ネットワークボードのドライバーを選択してください」を実行すると、新たな画面「ネットワークボード」が表示されます。最下行の「他のドライバー」を選択してリターンキーを押して下さい。手順(5)に進みます。

NetWare 3.12Jの場合、「ステップ 5.」を実行すると、手順(5)に進みます。

- (4) 「ドライバーディスクの挿入」を促す画面が表示されます。フロッピードライブをLA-ISA ドライバーディスクに入れ替え、次のディレクトリ名を入力してリターンキーを押してください。

#### NetWare 4.11J の場合

```
A: ¥> ¥NETWARE.DOS ¥NW411
```

#### NetWare 4.1J の場合

```
A: ¥> ¥NETWARE.DOS ¥NW410
```

#### NetWare 3.12JJ の場合

```
A: ¥> ¥NETWARE.DOS ¥NW312
```

- (5) 「CentreCOM LA-ISA/LA-ISA\_V2」を選択し、リターンキーを押してください。
- (6) 「CentreCOM LA-ISA/LA-ISA\_V2 の設定」という画面が表示されます。以下の項目の設定が終了したら ESC キーを押し、この画面を終了してください。

#### ベース I/O ポート

Plug & Play に対応していないパソコンの場合は、CFGISA で設定した I/O アドレスを入力してください(工場出荷時設定は「300」)。

Plug & Play 対応パソコンの場合は、「300」を選択してください (NET.CFG に port 記述行が追加されますが、無視されます)。



Media Frame Type(S)

ご使用になるフレームタイプを選択してください。

- (7) 以後、インストールプログラムが表示するメッセージに従って操作してください。
- (8) インストールが終了し、DOSプロンプトが表示されたら、リセットスイッチを押してパソコンを再立ち上げしてください。

## 2 インストール結果

インストールが終了すると、NetWare クライアントの動作に必要なファイルやドライバー「LAISA.COM」がコピーされ、NET.CFG、STARTNET.BAT が作成されます<sup>†1</sup>。NetWare クライアントのインストーラに対して、デフォルトの項目を選択したときの NET.CFG、STARTNET.BAT を示します。

### 2.1 NET.CFG<sup>†2</sup>

#### I/O アドレス

「Port」の後には、NetWare クライアントのインストーラで選択した数値が記述されます。Plug & Play 対応パソコンの場合、この記述は無視されます(削除してもかまいません)。Plug & Play 非対応パソコンの場合は、CFGISA で設定した I/O アドレス(先頭の値)が記述されていなければなりません。

#### インタラプトレベル

パソコンの Plug & Play 対応、非対応に関わらず、インタラプトレベルを記述する必要はありません。

#### 4.1J(デフォルト)

```
Link Driver LAISA
  PORT 300
  FRAME Ethernet_802.2

NetWare DOS Requester
  FIRST NETWORK DRIVE = F
  NETWARE PROTOCOL = NDS BIND
  SHORT MACHINE TYPE = DOSV
```

†1 NetWare のインストーラは、AUTOEXEC.BAT の先頭に「@CALL C:¥NWCLIENT¥STARTNET」を追加し、PATH に「C:¥NWCLIENT」を追加します。また、NetWare 4.11J の場合は、時間に関する環境変数「SET TZ=JST-9」も追加されます。

†1 NET.CFG に IRQ、全2重/半2重に関するオプションを記述することはできません。これらの設定は、あらかじめ CFGISA で行っておいてください。

#### 4.11J(デフォルト)

```
Link Driver LAISA
  PORT 300
  FRAME Ethernet_802.2

NetWare DOS Requester
  NETWARE PROTOCOL = NDS BIND
  Checksum = 0
  First Network Drive = F
  Short Machine Type = DOSV
  Signagure Level = 0
```

#### 3.12J(デフォルト)

```
Link Driver LAISA
  PORT 300
  FRAME Ethernet_802.2

NetWare DOS Requester
  Checksum = 0
  First Network Drive = F
  Short Machine Type = DOSV
  Signature Level = 0
```

## 2.2 STARTNET.BAT(デフォルト)

STARTNET.BAT は、4.1xJ、3.12J で共通です。

```
SET NWLANGUAGE=nihongo
C:¥NWCLIENT¥LSL.COM
C:¥NWCLIENT¥LAISA.COM
C:¥NWCLIENT¥IPXODI.COM
C:¥NWCLIENT¥VLM.EXE
```

### 3 エラーメッセージ

ドライバーが常駐するときに表示されるエラーメッセージを示します。

The adapter did not initialize. LAISA did not load.

イーサネットアダプタの初期化に失敗しました。LAISA.COMはロードされませんでした。このエラーメッセージは、原因を説明するエラーメッセージとともに表示されます。

\*\*\* CentreCOM LA-ISA Unable to Register with Configuration Manager. \*\*\*

(1)本アダプタがパソコンに正しく装着されていません。

(2)Plug & Play に対応していないパソコンをご使用の場合で、「PORT」に記述されている数値が、実際に本アダプタに設定されている数値に一致していません。CFGISAの「Lan Adapterの設定変更」-「Auto Scan Start」を使用し、設定値を調べその数値を記述してください。

(3)パソコンのPlug & Playの対応、非対応に関わらず、他の拡張アダプタと本アダプタの設定重複の可能性があります。ETHDIAGで障害の切り分けを行ってください。

An invalid keyword was specified in NET.CFG on line #.

NET.CFGに記述したキーワード(予約語)に誤りがあります。本マニュアルをご覧ください。

A missing or invalid value was specified in NET.CFG on line #.

NET.CFGに記述した数値に誤りがあります。本マニュアルをご覧ください。

The following configuration file entry was ignored:

記述行が無視されたことを意味します(このエラーメッセージの後に誤りの記述行が表示されます)。このメッセージは、原因を説明するメッセージとともに表示されます。

< 例 >

```
PQRT 300
PORT 30
```

The LSL is not loaded.

LSLを常駐させずにLAISA.COMを常駐させようとしてしました。まず、LSLを常駐させてください。

## 4 NetWare クライアントと PC/TCP の共存環境

NetWare と弊社 CentreNET PC/TCP の共存環境を構築する最も簡単な方法は、

(1) まず、NetWare のクライアントのインストールを行い(作業の中で ODI クライアントドライバのインストールを行います)、

(2) 引き続き、PC/TCP のインストールを行うことです。

(1)、(2)ともそれぞれに付属しているインストーラ(インストールプログラム)によってインストールすることができ、メニューを選択するだけで、自動的に全ての設定が行われます。

何らかの理由によって、PC/TCP のインストールを行った後、NetWare のインストールを行わなければならない場合、AUTOEXEC.BAT、NET.CFG ファイルの編集を行ってください(CentreNET PC/TCP マニュアルの「インストール結果」の項もご覧ください)。

### 4.1 AUTOEXEC.BAT の記述

下記のように、STARTNET 記述行の後に、PATH、環境変数 PCTCP、ODIPKT、ETHDRV を記述してください。CONFIG.SYS の編集は不要です。

```
@CALL C:¥NWCLIENT¥STARTNET
.....
PATH=C:¥PCTCP;%PATH%
SET PCTCP=C:¥PCTCP¥PCTCP.INI
ODIPKT
ETHDRV
.....
```

### 4.2 NET.CFG の記述

NET.CFG ファイルは、本アダプターが使用するフレーム、プロトコルなどを設定するファイルです。次に、NetWare と PC/TCP(TCP/IP)を共存させるための記述例を示します(ドライバーディスクに NET.CFG のひな形があります。コピーしてご使用ください)。太文字の記述行が PC/TCP に関連する行です。NET.CFG の記述に関する詳細は、NetWare のマニュアルをご覧ください。

```

Link Support
    max stacks 8

Protocol IP
    Bind LAISA

Protocol ARP
    Bind LAISA

Link Driver LAISA
    Port 300†1

#    Frame ETHERNET_802.3
    Frame ETHERNET_802.2
    Frame ETHERNET_II

#    Protocol IPX 0000 ETHERNET_802.3
    Protocol IPX 00e0 ETHERNET_802.2

#    Protocol IPX 8137 ETHERNET_II
    Protocol IP 0800 ETHERNET_II
    Protocol ARP 0806 ETHERNET_II

NetWare DOS Requester
    .....
    (デフォルトの NET.CFG の記述をご覧ください)
    .....

```

以下に従い、お客様の環境で使用しないフレーム、プロトコルはシャープ「#」または、セミコロン「;」によってコメントアウトしてください。

- (1) 「Frame ETHERNET\_802.3」は、NetWare 3.11J 以前のものにおいてデフォルトで使用されるフレームです。
- (2) 「Frame ETHERNET\_802.2」は、NetWare 4.1J/3.12J においてデフォルトで使用されるフレームです。
- (3) 「Frame ETHERNET\_II」は、弊社 CentreNET PC/TCP などの TCP/IP 通信ソフトウェアで使用されるフレームです。

---

† 1 LA-ISA V2 が Plug & Play モードで動作しているとき、「Port」の記述は無視されます。

# 第9部

## LAN Manager DOS Client

第9部では、本製品のDOS NDIS ドライバーをMS-DOS にインストールする方法について説明します。

# 1 LAN Manager DOS クライアント

## 準備

DOS NDIS ドライバー(以下、NDIS ドライバー)のインストールを実行する前に、ご使用になるパソコンや本製品に対して、あらかじめ以下のことを施しておいてください。

- [1] Plug & Play **対応パソコン**の場合、パソコンが Plug & Play をサポートするように設定されていること。詳細は、第3部「3 MS-DOS・Windows 3.1における Plug & Play」をご覧ください。
- [2] Plug & Play **に対応していないパソコン**の場合、「CFGISA.EXE」によってモード、I/O アドレス、インタラプトが設定されていること。詳細は、第3部「2 アダプターの設定・CFGISA.EXE」をご覧ください。

## インストール

Windows NT 4.0 Server で提供されている LAN Manager DOS クライアントにおける手順の概要を示します。

- (1) Windows NT Server の CD-ROM から、LAN Manager のインストールフロッピーディスク(3枚)を作成します。詳細は CD-ROM の ¥Client¥Lanman にある README ファイルをご覧ください。
- (2) 「DOS Setup」ディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、以下のコマンドを実行します。

```
A:¥>SETUP
```

- (3) インストーラが起動します。画面の指示にしたがって、インストールを進めます。途中、「LAN Manager のインストール」画面でインストール元ドライブの入力を促されます。デフォルトの「A:¥」のままでリターンキーを押し、次に進みます。
- (4) ファイルのコピーが行われます。「DOS WORKSTATION」および「DOS Drivers」の2枚のディスクを要求されますので、順にディスクを挿入してファイルのコピーを進めます。
- (5) ファイルのコピーが終了すると「ネットワークアダプタドライバ」画面が表示されますので、<その他のドライバ>を選択してください。「ドライバまたはプロトコルファイルのコピー」画面が表示されたら、本製品のドライバーディスクを挿入して「了解」を選択します。

- (6) 「Allied Telesis LA-ISA/ISA\_V2 LAN Adapter」が表示されますので、「了解」を選択します。以後、画面の指示にしたがってプロトコル、アドレス等の設定を行います。これらの項目についての詳細はネットワーク管理者にお尋ねください。
- (4) インストーラの終了後、必要であれば、CONFIG.SYS、AUTOEXEC.BAT、PROTOCOL.INI ファイルを編集してください。

## 2 インストール結果

インストールが終了すると、LAN Manager DOS クライアントの動作に必要なファイルやドライバ「LAISA.DOS」がコピーされ、ネットワークや LAN アダプターに関する設定を記述したファイル PROTOCOL.INI が作成されます。また、AUTOEXEC.BAT、CONFIG.SYS にいくつかの記述が追加されます。

### 2.1 PROTOCOL.INI

PROTOCOL.INI は本アダプターの I/O アドレス、使用するプロトコルなどを記述しておく設定ファイルです。LAN マネージャの各ドライバーは、この設定ファイルに従ってシステムを初期化します。LAN マネージャのインストールプログラムを使用して、LAISA.DOS をインストールしたときに生成される PROTOCOL.INI の例を示します。

#### [ATIMAC\_NIF]セクションの記述

[ATIMAC\_NIF]は、LA-ISA V2 に関する項目を記述するセクションで、ドライバー名と I/O アドレスを記述します。

#### ドライバー名

ネットワークデバイスドライバー名です。必ず下記を記述しなければなりません。

```
DRIVERNAME = ATIMAC$
```

#### I/O アドレス

ご使用のパソコンが Plug & Play に対応していないパソコンの場合、“IOADDRESS = 0x” に続けて、CFGISA で設定した I/O アドレスの数値を書いて下さい(インストーラによってデフォルト値が記述されます。CFGISA の「Lan Adapter の設定変更」を実行した場合は、その数値を記述してください)。本アダプターの I/O アドレスは、16 進数で表されているため、数値の先頭に“0x” を置かなければなりません。

```
IOADDRESS = 0x300
```

Plug & Play 対応パソコンの場合、この記述は無視されます(削除してもかまいません)。

† 1 IRQ、全 2 重 / 半 2 重に関するオプションは PROTOCOL.INI に記述することはできません。こちらは、あらかじめ CFGISA で設定しておいてください。



```
[PROTMAN]
  DRIVERNAME = PROTMAN$
  DYNAMIC = YES
  PRIORITY = NETBEUI

[NETBEUI_XIF]
  Drivename = netbeui$
  SESSIONS = 6
  NCBS = 12
  STACKSIZE = 4096
  BINDINGS = "ATIMAC_NIF"
  LANABASE = 0

[ATIMAC_NIF]
; The section for the ATKK CentreCOM LA-ISA/LA-ISA V2 LAN Adapter.
;
; DRIVERNAME      Always must use ATIMAC$.
; IOADDRESS       Must specify the base I/O address of the adapter as
;                 configured with the CFGISA.EXE program.
;                 0x200, 0x220, 0x240, 0x260, 0x280, 0x2A0, 0x2C0, 0x2E0
;                 0x300, 0x320, 0x340, 0x360, 0x380, 0x3A0, 0x3C0, 0x3E0

  DRIVERNAME = ATIMAC$
  IOADDRESS = 0x300
```

## 2.2 CONFIG.SYS

```
DEVICE=C:\LANMAN.DOS\DRIVERS\PROTMAN\PROTMAN.DOS /i:C:\LANMAN.DOS
DEVICE=C:\LANMAN.DOS\DRIVERS\ETHERNET\ATIMAC\LAIISA.DOS
```

## 2.3 AUTOEXEC.BAT

```
@REM ===== LANMAN 2.1 === DO NOT MODIFY BETWEEN THESE LINES ===
  LANMAN 2.1 =====
SET PATH=C:\LANMAN.DOS\NETPROG;%PATH%
NET START WORKSTATION
LOAD NETBEUI
NET LOGON sasaki *
@REM ===== LANMAN 2.1 === DO NOT MODIFY BETWEEN THESE LINES ===
  LANMAN 2.1 =====
```

## 3 エラーメッセージ

ドライバーが常駐するときに表示されるエラーメッセージを示します。

### Initialization failure

イーサネットアダプタの初期化に失敗しました。このエラーメッセージは、原因を説明するエラーメッセージとともに表示されます。

### Syntax error in PROTOCOL.INI - Invalid Parameter Value

PROTOCOL.INI に記述した数値に誤りがあります。本マニュアルをご覧ください。  
り、正しい数値を記述してください。

### Syntax error in PROTOCOL.INI - Unrecognized Keyword

PROTOCOL.INI に記述したキーワード(予約語)に誤りがあります。本マニュアルをご覧ください。  
り、正しいキーワードを記述してください。

### Network Interface Hardware Not Found or Not Responding

イーサネットアダプタが見つかりません。すなわちイーサネットアダプタからの応答がありません。

(1)本アダプタがパソコンに正しく装着されていません。

(2)Plug & Playに対応していないパソコンをご使用の場合で、PROTOCOL.INI に記述されている I/O アドレスの値 (IOADDRESS = 0x...) と本アダプタに設定されている I/O アドレスの値が一致していません。CFGISA の「Lan Adapter の設定変更」-「Auto Scan Start」で現在設定されている I/O アドレスを調べ、その数値を PROTOCOL.INI に記述してください。

(3)パソコンの Plug & Play の対応、非対応に関わらず、他の拡張アダプタと本アダプタの設定重複の可能性がります。ETHDIAG で障害の切り分けを行ってください。

## 4 LAN Manager と PC/TCP の共存環境

LAN Manager と弊社 CentreNET PC/TCP(以下「PC/TCP」と略記)の共存環境を構築する最も簡単な方法は、

- (1) まず、LAN Manager のインストールを行い、
- (2) 引き続き、PC/TCP のインストールを行うことです。

(1)、(2)ともインストール作業は、製品に付属しているインストーラ(インストールプログラム)によって簡単に実行できます。また、メニューが用意されており、適切

な項目を選択するだけで自動的にすべての設定が行われます。

何らかの理由によって、PC/TCP のインストールを行った後、LAN Manager のインストールを行わなければならない場合、CONFIG.SYS、PROTOCOL.INI ファイルの編集を行ってください (CentreNET PC/TCP マニュアルの「インストール結果」もご覧ください)。

## 4.1 CONFIG.SYS

下記のように、NDIS ドライバー記述行の後に DIS\_PKT.GUP の記述を追加してください。

```
.....  
DEVICE=A:\LANMAN.DOS\DRIVERS\ETHERNET\ATIMAC\LAISA.DOS  
DEVICE=A:\PCTCP\DIS_PKT.GUP
```

## 4.2 AUTOEXEC.BAT

AUTOEXEC.BAT の最後に ETHDRV を追加してください。

```
.....  
LOAD NETBEUI  
REM == LANMAN 2.1 ==DO NOT MODIFY BETWEEN THESE LINES==LANMAN  
 2.1==  
ETHDRV
```

## 4.3 PROTOCOL.INI

PROTOCOL.INI の最後に下記のセクション [PKTDRV] を追加してください。

```
[PKTDRV]  
DRIVERNAME = PKTDRV  
BINDINGS = ATIMAC_NIF  
INTVEC = 0x6E
```

# 第10部

## パケットドライバー

第10部では、本製品のパケットドライバー「LAISAPD.COM」のインストールについて説明します。パケットドライバーは、主にTCP/IP通信ソフトウェア、例えば弊社製「CentreNET PC/TCP」などで使用されるドライバーです。

# 1 パケットドライバー

## 準備

パケットドライバーのインストールを実行する前に、ご使用になるパソコンや本製品に対して、あらかじめ以下のことを施しておいてください。

- [1] Plug & Play **対応パソコン**の場合、パソコンが Plug & Play をサポートするように設定されていること。詳細は、第3部「3 MS-DOS・Windows 3.1における Plug & Play」をご覧ください。
- [2] Plug & Play **に対応していないパソコン**の場合、「CFGISA.EXE」によってモード、I/Oアドレス、インタラプトが設定されていること。詳細は、第3部「2 アダプターの設定・CFGISA.EXE」をご覧ください。

## 1.1 CentreNET PC/TCP

CentreCOM LA-ISA のパケットドライバー「LAISAPD.COM」のインストールは、CentreNET PC/TCP のインストーラ (インストールプログラム) の中で行われます。

- (1) パソコンのマニュアルにしたがい、本製品をパソコンに取り付けてください。
- (2) PC/TCP のインストーラを実行してください。作業の中で、本製品のドライバーディスクをフロッピーディスクに入れるように指示されます。
- (3) ドライバーの選択画面で、「パケットドライバー」を選択してください。

## 1.2 その他の TCP 通信ソフトウェアをご利用の場合

パケットドライバーを要求する他社のネットワークソフトウェアと本製品を組み合わせる場合、ソフトウェアに関するインストール手順は、ネットワークソフトウェアに添付されているマニュアルに従ってください。

しかしながら、ほとんどのネットワークソフトウェアのインストールにおいて、基本的なことは下記の点です。

- (1) ネットワークソフトウェア自身のインストール：  
ネットワークソフトウェアに付属のマニュアルに従ってインストールします。
- (2) 本製品用パケットドライバーのインストール：

ネットワークソフトウェアに付属のマニュアルに従って、本製品用パケットドライバを所定の箇所にコピーします。

- (3) AUTOEXEC.BAT の編集：  
ネットワークソフトウェアに付属のマニュアルに従って編集します。
- (4) CONFIG.SYS の編集：  
ネットワークソフトウェアに付属のマニュアルに従って編集します。

## 2 パケットドライバーの設定変更

Plug & Play対応パソコンでは、パケットドライバーの設定変更の必要はありません。本製品が使用するI/Oアドレス、インタラプトの値はパソコンによって自動的に設定されます。パケットドライバーは、パソコンから渡される設定値を使用するため、パケットドライバーに書き込まれている設定値は無視されます。

Plug & Playに対応していないパソコンでは、他の拡張アダプターとの設定重複回避などのために、本製品のI/Oアドレスを工場出荷時設定以外に変更した場合は、パケットドライバーに書き込まれたI/Oアドレスを本製品の設定値に一致させなければなりません。

パケットドライバーのI/Oアドレス変更は、CFGISAの「ドライバーソフトの設定変更」メニューを使用して行います。

- (1) 下記のコマンドを入力してください。

CFGISA

- (2) メニューから「ドライバーソフトの設定変更」を選択してください。
- (3) ファイル名として、「LAISAPD.COM」をフルパスで入力してください(ドライバーディスクを指定する場合は「A:¥PD¥LAISAPD.COM」となります)。
- (4) CFGISAで本製品に設定したI/Oアドレスを選択してください。

### 3 エラーメッセージ

ドライバーが常駐するときに表示されるエラーメッセージを示します。

Error: I/O base address error.

Please check I/O Base address.

(1)本アダプタがパソコンに正しく装着されていません。

(2)Plug & Playに対応していないパソコンをご使用の場合で、LAISAPD.COMに設定されているI/Oアドレスの値が、実際に本アダプタに設定されている数値に一致していません。CFGISAの「Lan Adapterの設定変更」-「Auto Scan Start」を使用して設定値を調べ、その数値をCFGISAの「ドライバソフトの設定変更」で設定してください。

(3)パソコンのPlug & Playの対応、非対応に関わらず、他の拡張アダプタと本アダプタの設定重複の可能性があります。ETHDIAGで障害の切り分けを行ってください。

Warning: Driver is already loaded.

ドライバがすでに常駐しています。





# 1 ハードウェア診断プログラム

ETHDIAG.EXEは、ハードウェアのテストを行い、エラーを検出するとメッセージを表示して終了します。本製品が正常に動作することを確認したり、本製品の使用中に異常が生じたとき、何が原因なのかを調べることができます。ETHDIAG.EXEは、「MS-DOS」または「Windows95のDOSプロンプトのみのモード」で実行することができます。

## 1.1 ハードウェア診断の手順

- (1) 本製品をパソコンに組み込み、ネットワークに接続してください(ネットワークに接続されていない場合、ハードウェア診断プログラムはエラーを返します)。
- (2) パソコンの電源をオンにしてください。

Windows95 をご使用の場合は、画面に「Starting windows95...」または「Windows95 を起動しています...」というメッセージが表示されたら、キーボードの「F8」キーを押してください。

メニューから「Command prompt only」または「コマンドプロンプトのみ」を選択してください。(3)に進んでください。

MS-DOS をご使用の場合、(3)に進んでください。ただし、パケットドライバー、DOS ODIまたはDOS NDISドライバーが常駐している場合は、解放(常駐解除)してください。これらが常駐しているときにETHDIAGを実行すると、エラーメッセージが表示されます。

- (3) 本製品のドライバーディスクをフロッピードライブに挿入し、下記のコマンドを実行します。本製品を「Plug & Play」モードに設定している場合、コマンドオプションは不要です。ここでは、フロッピードライブをA:と仮定します。

```
C:¥>A:  
A:¥>ETHDIAG
```

本製品を「Legacy」モードに設定している場合、すなわち引き数として本製品に設定されている「I/Oアドレスの先頭値」を指定しなければなりません。引き数を指定しなかった場合、本製品の工場出荷時設定値「300」が採用されます。

```
A:¥>ETHDIAG -B:240
```

また、下記のコマンド行を入力すると、ヘルプを表示します。

```
A:¥>ETHDIAG -h
```

## 1.2 正常に試験が終了した例

以下に正常な試験結果の例を示します。

```
CentreCOM LA-ISA/LA-ISA V2 Diagnostic Version 1.1 pl 0 [AT/IBM-PC]
Copyright (c) 1995-97 by Allied Telesis, K.K. All rights reserved.
  Int Level: 10
    IO Base: 240
      IO Check: OK
        Ether Address: 00 00 f4 4a 27 f3
          Board Type: LA-ISA-T V2 (10227)
            Buffer RAM Check: OK
              Interrupt Check: OK
                Loopback Check 1: OK
                  Loopback Check 2: OK
                    Loopback Check 3: OK

All Check Terminated
```

## 1.3 正常に試験が終了しなかった例

障害が発生した時点で試験を中断し、結果を表示します。下記は、LA-ISA-T V2 に UTP ケーブルが接続されていない例です。

```
CentreCOM LA-ISA/LA-ISA V2 Diagnostic Version 1.1 pl 0 [AT/IBM-PC]
Copyright (c) 1995-97 by Allied Telesis, K.K. All rights reserved.
  Int Level: 10
    IO Base: 240
      IO Check: OK
        Ether Address: 00 00 f4 4a 27 f3
          Board Type: LA-ISA-T V2 (10227)
            Buffer RAM Check: OK
              Interrupt Check: OK
                Loopback Check 1: OK
                  Loopback Check 2: OK
                    Loopback Check 3: CRC NG
```

## 1.4 ETHDIAG のエラーメッセージと対策

### Adapter is not found

- (1) 本製品がパソコンに正しく装着されていません。本製品の設置を再確認の上、パソコンを再起動してください。
- (2) Plug & Play **対応**パソコンをご使用の場合は、Plug & Play に対応していない他の拡張アダプターとの設定重複の可能性が考えられます。「Plug & Play に対応していない他の拡張アダプター」を順番にパソコンから取り外し、ETHDIAG を実行することにより、どの拡張アダプターが障害の原因となっているのか切り分けることができます。ICU<sup>†1</sup>を使用し、Plug & Play に対応していない他の拡張アダプターの設定をパソコンに登録してください。
- (3) Plug & Play **に対応していない**パソコンに、Plug & Play モード(工場出荷時設定)に設定された本製品を取り付けています。第 11 部「2 一般的なトラブル」の「CFGISA で本製品が検出できない」をご覧ください。

### Interrupt Check: Tx error interrupt

- (1) 本製品がネットワークに接続されていません。
- (2) ネットワークに接続するためのケーブルが切断しています。
- (3) 特に、10BASE-Tにおいてネットワークに接続するためのケーブルが適切なものではありません。
- (4) 本製品を接続したトランシーバーがネットワークに正しく接続されていません(10BASE5、10BASE2)。
- (5) ハードウェアリソースが重複している可能性があります。

---

† 1 ICU(ISA Configuration Utility)は、MS-DOS で Plug & Play 機能を使用するためのプログラムで、パソコンに付属しています。このソフトウェアに関する情報は、例えば DELL 製 OptiPlex XMT 5133 という機種では、「ISA コンフィグレーションユーティリティ(ISA)ユーザーズガイド」という冊子で説明されています。

## Buffer RAM Check: NG

- (1) 送受信 RAM Read/Write チェックでエラーが発生しました。パソコンを再起動してください。
- (2) 他の拡張アダプターと本製品の設定が重複している可能性があります。他の拡張アダプターをすべてパソコンから取り外し、ETHDIAG を実行してみてください。

## Loopback Check #: Tx timeout

### Loopback Check #: Return Packet Timeout

データの送信時 / 受信時にタイムアウトが発生しました。本製品の設置確認、ケーブルなどハードウェアの確認を行ってください。「#」の部分には、「1」、「2」、「3」が入ります。

## Loopback Check #: Rx Framing error

### Loopback Check #: Rx CRC error

ネットワーク幹線に問題がある可能性があります。パソコンからハブまでのハードウェアをチェックして、問題がなければさらに幹線のチェックを行ってください。「#」の部分には、「1」、「2」、「3」が入ります。

## Loopback Check #: Tx Colision error

### Loopback Check #: Tx Carrier loss error

本製品とネットワークケーブルが物理的に接続されていません。または、ケーブルが断線している可能性があります。ケーブルのチェックを行ってください。「#」の部分には、「1」、「2」、「3」が入ります。

## 2 一般的なトラブル

### MS-DOS で本製品が動作しない( EMM386.EXE )

Version 4.49 以上の EMM386.EXE をご使用ください。これより低いバージョンの EMM386.EXE では、本製品が正常に動作しないことがあります。これは、Plug & Play BIOS の一部の機能が、EMM386.EXE などの EMS メモリ・マネージャに依存しているためです(これは Plug & Play 対応の拡張アダプター全般に関係した障害です)。

以下の手順で EMM386.EXE のバージョンの確認を行ってください。

- (1) CONFIG.SYS に記述された EMM386.EXE の引き数として「VERBOSE」を付けてください。

```
.....  
DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE ..... VERBOSE  
.....
```

DOS 画面から「EMM386」と入力することによるバージョン表示では、正確なバージョンが確認できません。必ず、CONFIG.SYSの内容がロードされるときのバージョンを確認してください。

- (2) パソコンを再起動します。CONFIG.SYYの内容がロードされる時、画面上に EMM386.SYS のバージョンが表示されます。画面表示はスクロールしますので、見逃さないようにご注意ください。
- (3) EMM386 が 4.49 以下のバージョンであった場合、最新のバージョンのものを入手して(ご使用のパソコンのメーカーにお問い合わせください)、古いバージョンのものと入れ替えてください。

### CFGISA で本製品が検出できない

**症状 1:** CFGISA を実行すると、「現在の I/O Base Address を選択してください」メニューが表示され、「Auto Scan Start」の実行や「適切なアドレス」の選択を行っても「その値は Adapter ではありません」と表示されてしまう。

**症状 2:** ETHDIAG を実行すると「adapter is not found」と表示されてしまう。

**原因:** パソコンが Plug & Play に対応していないことが主な原因です。Plug & Play モード(工場出荷時設定)の状態、本製品を Plug & Play に対応していないパソコンに取り付けると、パソコンに Plug & Play BIOS が搭載されていないために、

CFGISA や ETHDIAG が本製品を検出できません。

**対策:** 以下の手順を実行してください。

「MS-DOS」または「Windows95 の DOS プロンプトのみのモード」<sup>†1</sup> を起動し、ドライバーディスクをフロッピードライブに入れて、下記のコマンドを入力してください。「-B:」の後には現時点でパソコンによって使用されていない I/O アドレス(例えば、「300」や「240」など)を指定してください。このコマンドによって、一時的に本製品を検出できるようになります。

```
C:¥>A:  
A:¥>LAISAACT -B:300†2
```



**重要** LAISAACT は、Plug & Play に対応していないパソコンで CFGISA を実行できるようにするためのユーティリティです。Plug & Play 対応パソコンでは LAISAACT を実行しないでください。Plug & Play 対応パソコンで LAISAACT を実行すると、Plug & Play 機能が不安定になります。Plug & Play 対応パソコンで LAISAACT を実行してしまった場合は、LAISAACT 実行後の状態でパソコンを使い続けず、必ずパソコンをリセットしてください。

続いて、CFGISA を起動してください。「現在の I/O Base Address を選択してください」メニューが表示された場合は、「Auto Scan Start」または「LAISAACT の -B: で指定したアドレス」を選択し、さらに本製品を Plug & Play モードから Legacy モードに変更します。必要であれば、I/O アドレスや IRQ も変更してください。

```
A:¥>CFGISA
```

パソコンのリセットスイッチを押すか、パソコンの電源をオフにし再びオンにしてください(Ctrl + Alt + Del でリセットしないでください)。パソコンが起動したら、ETHDIAG で本製品が正しく動作することを確認してください<sup>†2</sup>。この時点では、本製品は Legacy モードに設定されているので、I/O アドレスを「300-31F」以外に変更した場合は、「-B:」オプションを付け I/O アドレスを指定してください。

```
A:¥>ETHDIAG -B:240
```

- 
- † 1 Windows95 の中から起動された「MS-DOS プロンプト」では実行できません。
- † 2 LAISAACT は、Plug & Play に対応していないパソコンで CFGISA を正しく実行できるようにするためのプログラムです。LAISAACT を実行後、LA-ISA V2 は通常の動作状態ではないため、LAISAACT を実行し、その直後に ETHDIAG で試験することは意味を持ちません。



第 A 部

付 録



---

## 1 ドライバーインストーラ (SETUP.EXE)

本製品には、DOS ドライバーを MS-DOS にインストールするためのユーティリティが付属しています。このユーティリティは、メニューによって操作することができ、インストール先、DOS ドライバーのタイプを選択することができます。

このユーティリティは、ドライバーのコピーとともに、NET.CFG、PROTOCOL.INI、AUTOEXEC.BAT、CONFIG.SYS のひな型も作成します。このユーティリティは、インストール先のディレクトリにファイルをコピーするだけで、既存の動作環境に全く変更を加えません。

## 2 MAC アドレス<sup>†1</sup>

イーサネットに接続される機器は、MAC アドレスと呼ばれる「機器 (アダプター) のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の (unique、ユニークな) アドレス」を使って通信をしています。

MAC アドレスは、下記の 6 バイト (48 ビット) によって構成されており、アダプター内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。本アダプターの MAC アドレスは、アダプターに貼付されたラベルに記入されています (表記は全て 16 進数)。

00	00	F4	4A	xx	xx
ベンダー ID			通し番号		

### ベンダー ID

LAN ベンダー (LAN 用機器を製造しているメーカー) が IEEE に申請することにより得られる ID 番号です。

### 通し番号

当社が製品のひとつひとつに割り当てた通し番号で、「LA-ISA-T V2」では「4A」または「4B」、「LA-ISA-25T V2」では「4C」から始まる 6 桁の数値です。この番号は、バーコードラベルのシリアル番号とは全く別のものです。

---

<sup>†1</sup> MAC アドレスは、イーサネットアドレス、ネットワークアドレス、物理アドレス、ノードアドレスと呼ばれることもあります。

## 3 I/O アドレス

Plug & Play モードのときは、(2)～(16) の 14 通りの I/O アドレスの中からパソコンによって自動的に選択されます。Legacy モードのときは、(1)～(16) の 16 通りから選択できます。下線の値は、Legacy モードにおける工場出荷時設定です。

(1)200 - 21f	(2)220 - 23f	(3)240 - 25f	(4)260 - 27f
(5)280 - 29f	(6)2a0 - 2bf	(7)2c0 - 2df	(8)2e0 - 2ff
<u>(9)300 - 31f</u>	(10)320 - 33f	(11)340 - 35f	(12)360 - 37f
(13)380 - 39f	(14)3a0 - 3bf	(15)3c0 - 3df	(16)3e0 - 3ff

## 4 IRQ

IRQ (インタラプト) は、以下の 8 通りから選択できます。Plug and Play モードで動作させるときは、この中からパソコンによって自動的に選択されます。下線の値は、Legacy モードにおける工場出荷時設定です。

(1)IRQ 2/9	(2)IRQ 3	(3)IRQ 4	(4)IRQ 5
<u>(5)IRQ 10(A)</u>	(6)IRQ 11(B)	(7)IRQ 12(C)	(8)IRQ 15(F)

## 5 RJ-45 モジュラージャック(10BASE-T)

- (1) TX+ 送信データ(+)
- (2) TX- 送信データ(-)
- (3) RX+ 受信データ(+)
- (4) --- 未使用
- (5) --- 未使用
- (6) RX- 受信データ(-)
- (7) --- 未使用
- (8) --- 未使用

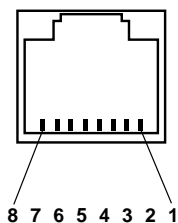


図 A.5.1 10BASE-T コネクター  
(本アダプターのコネクターに向って見た図)

## 6 AUI コネクター(10BASE5)

イーサネットトランシーバー (AUI) 用コネクターの接続リストを示します。コネクターは、15 ピン D サブタイプを使用しており、イーサネットトランシーバーケーブルの仕様に適合しています。

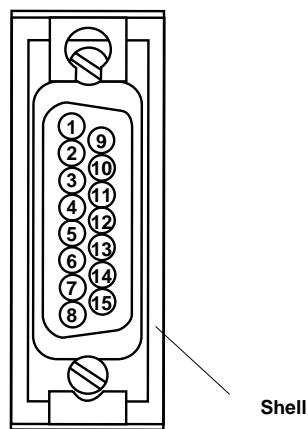


図 A.6.1 AUI コネクター  
(本アダプターのコネクターに向って見た図)

(1) CI Shield	シールド	(9) CI-	衝突検出(-)
(2) CI+	衝突検出 (+)	(10) DO-	送信データ(-)
(3) DO+	送信 データ(+)	(11) DO Shield	シールド
(4) DI Shield	シールド	(12) DI-	受信データ(-)
(5) DI+	受信データ(+)	(13) PWR+	電源供給線(+12V)
(6) PWR RTN	電源リターン	(14) PWR Shield	シールド
(7) Not Used	未使用	(15) Not Used	未使用
(8) Shield	シールド		

Shell (Protective GND)

## 7 製品仕様

### (1) ハードウェア仕様

信号：  
IEEE802.3

### (2) 機械的仕様

外形 ブラケット部分を除く )：  
68.0mm × 163.0mm( LA-ISA-T V2 )  
160.7mm × 161.2mm( LA-ISA-25T V2 )  
重量：  
75g( LA-ISA-T V2 )  
130g( LA-ISA-25T V2 )

### (3) 電氣的仕様

動作電圧： DC +5V ± 5%  
DC +12V ± 5%( LA-ISA-25T V2 のみ )  
消費電流： +5V 100mA( max )( LA-ISA-T V2 のみ )  
+5V 460mA( max )( LA-ISA-25T V2 のみ )  
+12V 500mA( max )† ( LA-ISA-25T V2 のみ )

### (4) 環境条件

温度： 0 ~ 55  
湿度： 最大 95%( ただし、結露なきこと )

### (5) 電気雑音の発生防止

VCCI Class B

### (6) 使用するハードウェア資源

I/O： 連続した 32 バイト( A.3 参照 )  
IRQ： 1 つ( A.4 参照 )

† 1 消費電流値は、ご使用のトランシーバーに依存します。



# 第B部

## 保証・ユーザーサポート

# 1 保証

本製品に添付されている「永久保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客さまインフォメーション登録カード」に必要事項を記入し、当社「お客さまインフォメーション登録係」までご返送ください。「お客さまインフォメーション登録カード」が返送されていない場合、修理や障害発生時のユーザーサポートなどを受けられません。

# 2 ユーザーサポート

障害回避などの技術的なサポートを受ける場合は、巻末の「調査依頼書」をプリントアウトしたものに必要事項を記入し、下記にファクスしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。ファクスによって詳細な情報を送付していただく方が、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入事項の詳細は、「3 調査依頼書のご記入にあたって」をご覧ください。また、問題解決のためにより詳細な情報が必要になった場合に、こちらからお尋ねすることもございますので予めご了承ください。

## アライドテレシス(株)サポートセンター

Fax: ☎ 0120-860-662 年中無休 24 時間受付

Tel: ☎ 0120-860-772 月～金(祝・祭日を除く)  
10:00-12:00、13:00-17:00

# 3 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、お客様の環境で発生した様々な障害の原因を究明するためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、障害の原因を突き止めることに時間がかかり、最悪の場合には障害の解消ができないこともございます。

迅速に障害の解消を行うためにも、また当社の担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点に従ってご記入ください。

記入用紙に書き切れない場合には、別紙としてプリントアウトなどを添付してください。なお、都合によりご連絡の遅れることもございますので、予めご了承ください。

# ハードウェアとソフトウェア

1. **ご使用製品のシリアル番号、製品リビジョン**  
本製品裏面に貼られたラベルに記入されているシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev.) を調査依頼書に記入して下さい。

(例)  S/N 000770000002346 Rev AA

2. **ご使用の当社のソフトウェア**  
当社製ソフトウェアをご使用になっている場合は、そのソフトウェアの種類 / バージョン(Ver.) / シリアル(S/N)を記入してください。それらは、フロッピーディスクのラベル上に記入されています。
3. **ご使用のコンピュータの機種**  
ご使用になっているコンピュータのメーカー名、機種名
4. **ご使用の周辺機器( CD-ROM ドライブ、サウンドボード、SCSI ボードなど)**  
他社製の拡張アダプターやメモリマネージャなどのユーティリティをご使用の場合はそれら全てについてご記入下さい。
5. **接続しているサーバー、UNIX システムの機種、OS など**  
接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入下さい。  
(例えば、NetWare 4.11J、Sun Solaris など)

## お問い合わせ内容

- \* どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に(再現できるように)記入して下さい。
- \* 障害などが発生する場合には、本製品と併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入下さい。
- \* MS-DOS における AUTOEXEC.BAT、CONFIG.SYS、バッチファイルに関しては、そのファイル内容のプリントアウトを必ず添付して下さい。
- \* エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。
- \* Windows95、Windows NT の場合、可能な限り、お手数ですがシステムレポート(OS が自動生成するシステムに関するレポート、名称は OS によって異なります)を出力し、添付いただきますようお願いいたします。



## システムレポートの出力方法

### 1. Windows95 の場合

- (1) コントロールパネルから「システム」を起動し、「デバイスマネージャ」タブを表示します。
- (2) 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。
- (3) 「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要(A)」を選択して下さい。以後、画面の指示にしたがってください。

### 2. Windows NT Ver.3.5/3.51 の場合

- (1) 「プログラムマネージャ」「管理ツール」と進み、「Windows NT 診断プログラム」アイコンをダブルクリックして起動します。
- (2) 「ファイル(F)」メニューの「レポートの印刷(P)...」コマンドを選択します。
- (3) 「レポートオプションの印刷」オプションでは「すべてレポートする(R)」を選択して下さい。以後、画面の指示にしたがってください。

### 3. Windows NT Ver.4.0 の場合

- (1) 「スタート」「プログラム」「管理ツール(共通)」「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。
- (2) 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。
- (3) 「レポートの作成」が表示されます。各オプションについては、「範囲」は「すべてのタブ(A)」を、「詳細レベル」は「完全(M)」を選択して下さい。以後、画面の指示にしたがってください。

## 接続の構成図

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付して下さい。

---

## 4 最新ドライバーソフトウェアの入手方法

当社は、改良などのために予告なく、本製品のドライバーのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のドライバーソフトウェアは、次の2つの方で入手することができます。

### ホームページからの入手

- (1) Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigator などの Web ブラウザを使用して、アライドテレシスのホームページ「<http://www.allied-telesis.co.jp>」にアクセスします。
- (2) 「DOWNLOAD(ダウンロード)」をクリックしてください。
- (3) 以後、画面の指示にしたがってください。

### フロッピーディスクでの入手

当社の**カスタマー・マーケティング**(TEL. ☎ 0120-860-442、9:00 ~ 17:30 / 月 ~ 金)までお問い合わせください。実費にて最新ドライバーのフロッピーディスクをご提供いたします。

# 調査依頼書(CentreCOM LA-ISA V2 1/2)

年 月 日

## 一般事項

- 御社名: \_\_\_\_\_  
部署名: \_\_\_\_\_  
ご担当者: \_\_\_\_\_  
ご連絡先住所: 〒 \_\_\_\_\_  
TEL: \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ ) FAX: \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ )
- 購入先: \_\_\_\_\_ 購入年月日: \_\_\_\_\_  
購入先担当者: \_\_\_\_\_ 連絡先(TEL): \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ )

## ハードウェアとソフトウェア

- ご使用の製品名、シリアル番号、製品リビジョン

LA-ISA- \_\_\_\_\_ V2

 S/N _____ Rev _____
---

- ご使用の当社のソフトウェア

LA-ISA V2 ドライバー	Ver. _____	pl. _____	
CentreNET PC/TCP	Ver. _____	pl. _____	S/N _____
CentreNET AT-TCP/32	Ver. _____	pl. _____	S/N _____
CentreNET AT-NFS95	Ver. _____	pl. _____	S/N _____
CentreNET AT-NFS/NT	Ver. _____	pl. _____	S/N _____
その他 _____ )	Ver. _____	pl. _____	S/N _____
その他 _____ )	Ver. _____	pl. _____	S/N _____

- ご使用のコンピュータについて

メーカー名と機種名:

ご使用の OS とバージョン:

Windows95      Version 950      Version 950a      Version 950B

その他( \_\_\_\_\_ )

Windows NT      Version 3.5      Version 3.51      Version 4.0

その他( \_\_\_\_\_ )

サービスパック( \_\_\_\_\_ )

その他( \_\_\_\_\_ )

- ご使用の周辺機器について

CD-ROM ドライブ( \_\_\_\_\_ )

サウンドボード( \_\_\_\_\_ )

SCSI ボード( \_\_\_\_\_ )

その他( \_\_\_\_\_ )

- ご使用のサーバー、UNIX システムの機種や OS など

( \_\_\_\_\_ )  
\_\_\_\_\_ )

# 調査依頼書( CentreCOM LA-ISA V2 2/2 )

年 月 日

---

## お問い合わせ内容

別紙あり      別紙なし

---

セットアップ中に起こっている障害      セットアップ後、運用中に起こっている障害  
Plug & Play      Legacy ( I/O アドレス \_\_\_\_\_ IRQ \_\_\_\_\_ )

---

## 接続の構成図

簡単で結構ですからご記入をお願いします。



**アライドテレシス株式会社**

PN J613-M0330-00 Rev.A 971126